

車体NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.
SPRING 2008 春

CONTENTS

巻頭言	2
NEWS特集	3
・「不正な二次架装の根絶活動」について	
・2007年度環境自主取り組みフォローアップ結果報告	
・タイ、ベトナムの自動車関連施設視察報告	
・第1回 技術発表会を開催	
NEWS FLASH	
本部だより	14
部会だより	15
支部だより	17
官公庁だより	18
部会・委員会紹介 第9回 特種部会	21
Net Work vol.52 (株)河野ボデー製作所	23
VOICE	25
そこが知りたい 第3回	27
Coffee Break	29
我が社の元気人	31
HOBBY LIFE	32
DATA BOX 車体生産台数 2007年10月～12月	33
編集後記	38



美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

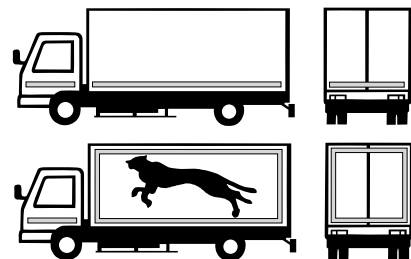
わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)＜スリーエム＞ダイヤモンドグレードコンスピキュイティ反射シートと＜スリーエム＞反射シート680Eシリーズを提供しています。また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、＜スコッチカル＞フィルム、＜コントロールタック＞プラスフィルムおよび＜スコッチプリント＞グラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

スリーエムTM ダイヤモンドグレード コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。

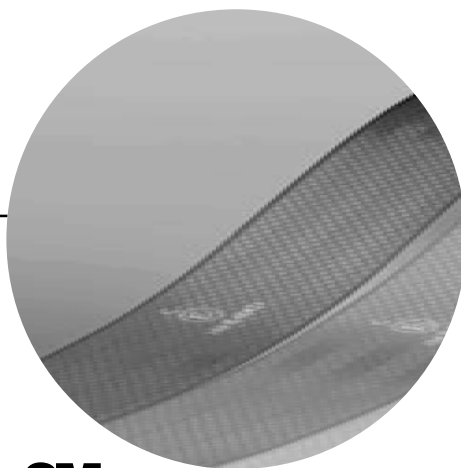


※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。

住友スリーエム株式会社

交通安全システム事業部 コマーシャルグラフィックス事業部

本社 158-8583 東京都世田谷区玉川台 2-33-1
電話 (03) 3709-8357 (交通安全) 03-3709-8375 (コマーシャル・グラフィックス)
URL : <http://www.mmm.co.jp>



3M

スリーエムダイヤモンドグレードTM
コンスピキュイティ反射シート

スリーエム反射シート680Eシリーズ

スコッチカルTM フィルム

コントロールタックTM プラスフィルム

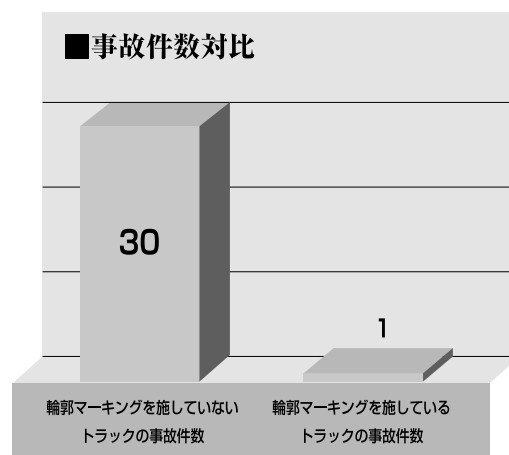
事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が「みられやすさ」(コンスピキュイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。



人がいる。夢がある。

3M

巻頭言

SHATAI NEWS ◆ 2008.春

特装車(多品種、少量生産)におけるモノづくり

中部支部長 山崎 茂雄

(株)東海特装車 取締役社長)



トヨタ生産方式(TPS)との出会い

私は、28年間登録車のボデー設計に携わり、その後2年間特装設計を経て、今の特装車のモノづくりに直接携わることになりました。

当時の生産は典型的季節変動型であり、春と秋の需要期は昼間作れるだけ作り、修正、手直しは定時後、場合によっては深夜、更には徹夜をして納期に間に合わせる、まさに自転車操業の「モノづくり」の繰り返しであり、「昨日徹夜で何台完成させた」と言うことが、あたかも自慢のようにまかり通っていました。部品作りでも、当社のレーザー設備は24時間稼働で、夜中は無人運転、製品の歩留まりも90%以上確保と大変生産効率の良い素晴らしい「モノづくり」が出来ていると、思っていました。

しかし現実には、必要のないものまで多量に作り、結果在庫の山であり、本当に必要な部品(少量)は、作りたくても作れないという矛盾した「モノづくり」になっていました。

本来のラインの中で作りこみができる「モノづくり」にしくはなくては「品質、納期、コスト」が満足できないと、2000年、本格的にトヨタ生産方式(TPS)を導入しました。

標準作業と見える化の推進「一工程改善」

最初に基本作業要素の「原単位」を作り上げ、それから順に応用型式に拡大する一方、CT(サイクルタイム)の低減、更に編成効率を上げるため、各工程の「見える化」を行いました。作業効率の平準化を目指し工程改善も実施し、部品作りについても「必要なものだけを作るしくみ、やり方改善」に取り組みました。

生産指示には「カンバン」を使っていましたが、過去の実績から決めるとい、生産ロットの決め方に問題があり、その見直しがされないまま、延々と作り続けていました。そこで生産ロットの必要数を徹底的に見直し、また歩留まりありきでなく、各部品の形状、板厚、材質などを設計と共通化し、極力台当たりセットでスケッチ材から歩留まりよく取れるよう改善を図り、在庫を大幅に低減、見かけの歩留まり低下にならない本来の歩留まり向上と両立が出来るようになりました。

特装(積載系)需要は、2003年排気ガス問題を期に

2007年8月までは当社を含み、受注が好調でしたが、2007年9月以降は業界の予想どおり、大幅に減少しました。

当社の2006年度の積載系における生産台数はおよそ年間2000台～2800台弱に対し、仕様数は1800～2000種類と1仕様あたり1台～2台がほとんどです。このような超多品種、超少量生産の条件で「品質、納期、コスト」を成立させることは、容易ではありません。

これを、少しでも成立たせるために、作業手順を再度見直し、課題を見つけ、その課題解決のために作業要素ごとに時間軸で見えるようにした「一工程改善」に取り組んでいます。

課題の見える化で原因追求を行う中、長い間、職人技術でやってきた「やりにく作業、気遣い作業」など、非効率な作業が浮き彫りになってきました。これらを1つ1つ改善することで、超多品種、超少量生産でも、品質、納期、コストが成立できるようになりました。「TPS」は当社にとって、「モノづくり」の原点として「改善しつづける」大切なツールとなりました。

事技部門への適用

「見える化」で、見えるようで見えないのが、「事技部門」の仕事ではないかと思います。例えば製造部門には、時時刻刻とどんな作業がどこまで進んでいるかが常に見える生産管理進捗板があるのに対し、総務、人事、設計、生産技術、生産管理等では、各個人が今どこまで進んでいるのか、遅れているのか、それが皆に見えているのか、上司、管理者は掴んでいるのか、作業1つ1つに標準作業、要領、手順があるのか、あっても効率的なのかと疑問を感じ、この対策を図りました。このように、「トヨタ生産方式」で、事技系での「生産性の向上」、「本来、取り組むべき業務改善は何か」を考え、2年前より設計部門からはじめ、準じ他部門へ展開中です。

自分にとって「TPS」は、大変新鮮で興味深いものであり、常に「改善しつづける」しくみとして、事務における「書類」、設計における「図面」、製造における「製品」、すべてが「モノづくり」だと思います。

「不正な二次架装の根絶活動」について

車体工業会では、この2年間、下記の「不正な二次架装の根絶活動」を最優先課題として掲げ、中央業務委員会で進捗を図ってきた。

2年間にわたり重点活動を行った結果、2006年度には支部会員を含め「不正な二次架装を行っていない／関わらないこと」の確認が取れ、また、2007年度には「販売会社からの不正な二次架装の要望がなくなったこと」の確認が取れた。

ただし、まだ一部ユーザーから要望があること、また業界からの根絶を目指し、継続したPR活動を実施することが必要と考えている。具体的には、車体業界全体とユーザーに「不正な二次架装根絶」のアピールをする、6月の「不正改造車を排除する運動」強化月間に参画する、コンプライアンスとしての対応などを実施していく。

【2006年度重点活动内容】

アウトサイダーを含む不正改造の根絶

半期毎の不正実態、根絶活動状況把握と指導

(正会員、地域会員、他団体、その他)

根本的解決策の検討と提言

(車検証備考欄記載事項変更、車両軽量化等)

自販連支部（販売店）と連携した各地域単位での

撲滅活動

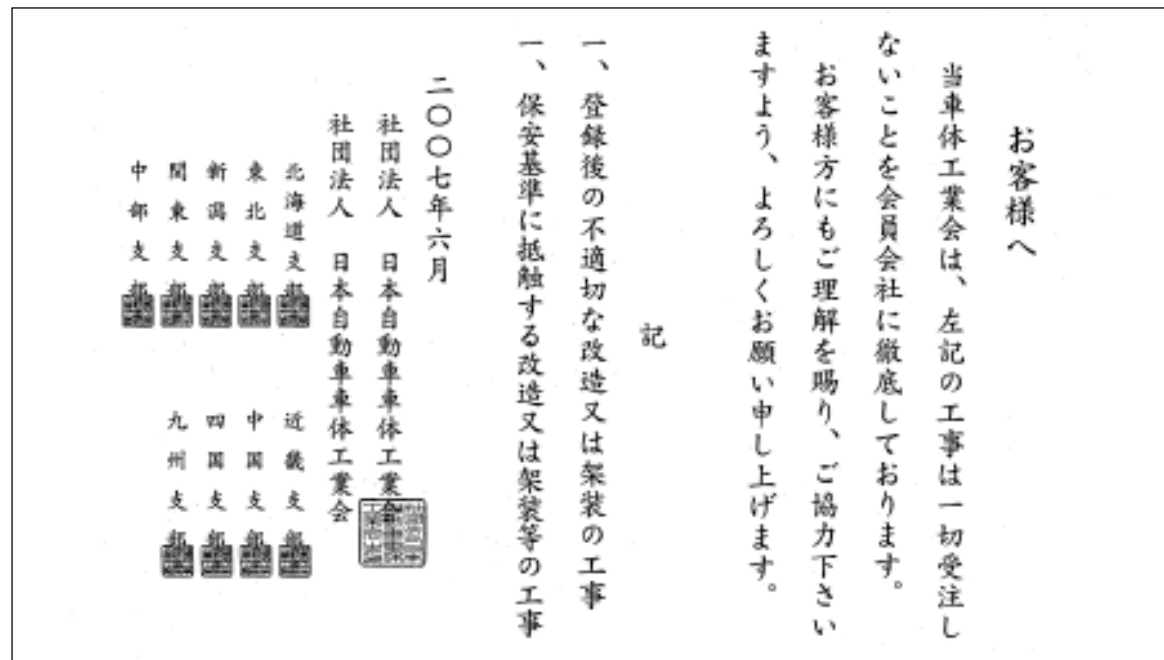
車工会従来活動(活動4項目や6月強化月間活動)

の徹底と見直し

- ・特に110番制度徹底等アウトサイダーを含めた根絶やユーザーへの啓発活動強化

【対外的に発信したチラシ / 意見広告、等】

「不正改造に一切関わらないことの宣言書」



3

「不正改造根絶」チラシその1：自販連共同



「不正改造撲滅」雜誌・新聞掲載広告



「不正改造根絶」チラシその2：自販連共同
不正改造110番一覧付



「環境基準適合ラベル」のアピールと同時掲載した広告



2007年度 環境自主取組み
フォローアップ結果報告（VOCおよび産業廃棄物）

●VOC削減について

車体工業会は、2006年9月に塗装工程から発生するVOC（揮発性有機化合物）排出抑制に関する自主行動計画をまとめ、削減活動を進めてきた。

今回2006年度排出状況をまとめ、経済産業省に報告、結果は2008年2月15日に開催された「産業構造審議会環境部会産業と環境小委員会、化学・バイオ部会リスク管理小委員会第6回産業環境リスク対策合同ワーキンググループ」で自主取組みに参加している37業界団体から提出されている「34件の自主行動計画」のうちの1件として報告された。

当会のVOC削減目標は2010年に「原単位で2000年度（基準年度）比50.6%削減の51 g / m²」として取組んでおり、2006年度の集計結果では「基準年度比39.1%減

の62.9 g / m²」と順調に改善されているが、総排出量では11.0%減に止まっている。一方、自主取組み参加の34件の2006年度排出量合計値は基準年度比30%減と、VOC削減自主取組みの目標値を達成している。

自主取組みに参加している団体合計の排出量に対する当会の排出量は多く（7番目）排出割合も増加していることから、更なる削減取組みが必要である。

今年度の上記合同ワーキングでは、業界団体に所属していない企業や、中小企業等のVOC削減支援や、インターネットで公開されている支援ツールの紹介が行われた（VOC排出削減支援ツール〔<http://www.voc-info.jp/>〕で作業別のVOC対策シミュレーションや、削減技術のサプライヤー情報取得が可能となっている）

表 1：当会の報告値

VOC合計		基準年度 (2000年度)	2005年度	2006年度	※2008年度 (中間目標)	2010年度 (最終目標)
全国	使用量(t)	29500	28920	28150	—	—
	排出量(t)	20300	19060	18060	—	—
目標値	原単位(g/m ²)	103.2	72.8	62.9	—	51.0
原単位の削減率(%)		—	29.5	39.1	—	50.6
排出量の削減率(%)		—	6.1	11.0	—	—

（他に関東、関西、中部地区別集計や物質毎の集計報告を行っています） ※車体工業会として設定していない

表 2：自主取組み参加37団体34件集計、車体工業会排出割合

	2000年度 (基準)	2005年度	2006年度	2008年度 (中間目標)	2010年度 (最終目標)
年間排出量 万t	51.0	37.6	35.7	35.3	31.1
削減量 万t	—	13.4	15.3	15.7	20.0
削減率 %	—	26	30	31	39
車体工業会排出割合 %	4.0	5.1	5.1	—	—

●廃棄物削減について

車体工業会の産業廃棄物最終処分量削減自主取組みは、日本経団連 環境自主行動計画〔循環型社会形成編〕に参画し取組んでおり、2006年度状況についてアンケート調査を実施、集計報告を行った。

その結果、産業廃棄物最終処分量合計は0.66万トンと1990年度比約86%減と大きく削減されており、昨年上方修正した2010年度目標の0.77万トンもクリアした。

また、廃棄物の有効活用が図られ、再資源化率も年々向上し、95%となった。

一方、当会独自の目標である報告会員売上高カバー率は2005年度 2006年度で91から92%と微増に留まっており、今後の向上取組みが必要である。

なお、日本経団連連への報告には環境基準適合ラベル取組みや、会員の環境対応取組みの紹介も含めてあり、3月に一般公表される予定である。

図 1：産業廃棄物最終処分量実績

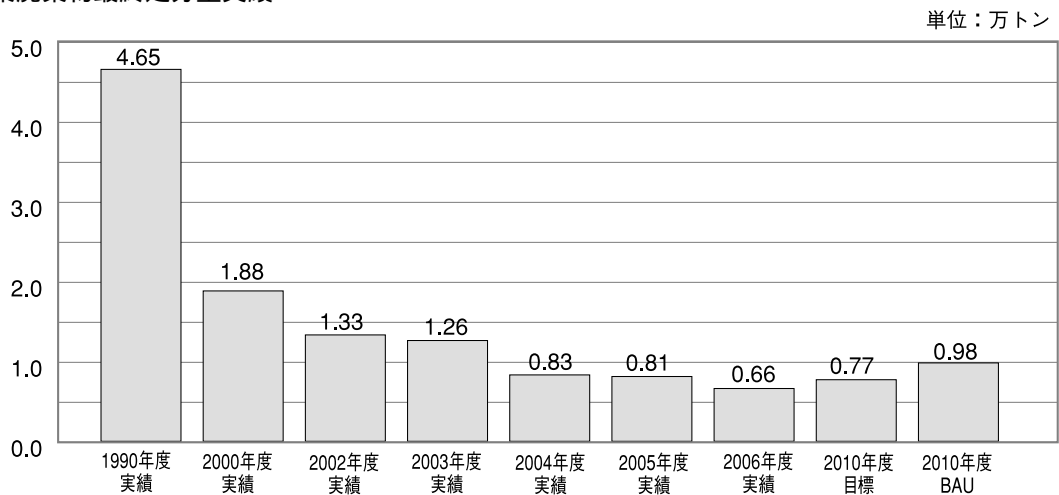


図 2：参加会員売上高カバー率（独自目標）

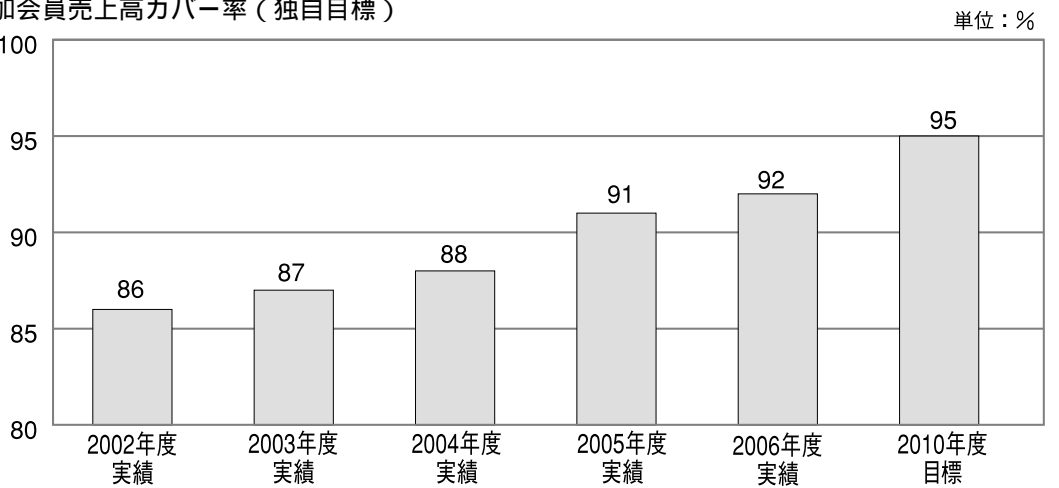


表 1：発生量・再資源化量・最終処分量・再資源化率

	1990年度 実績	2000年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績	2004年度 実績	2005年度 実績	2006年度 実績	2010年度 目標
発生量(単位:万トン)	13.72	15.37	17.24	18.91	14.74	12.10	12.34	—
再資源化量(単位:万トン)	9.07	13.49	15.91	17.65	13.89	11.29	11.68	—
最終処分量(単位:万トン)	4.65	1.88	1.33	1.26	0.83	0.81	0.66	0.77
再資源化率(%)	66.1	87.8	92.3	93.3	94.2	93.3	95.0	—

タイ、ベトナムの自動車関連施設視察報告

タイ、ベトナムは近年アジアで急成長を遂げつつある新興国であり、今後も更なる経済発展が期待できることから、その動向は非常に気になるところではないだろうか。

今回、トラック部会車輛運搬車分科会がタイ・ベトナム、バス部会資材委員会がベトナム、資材部会がベトナムと各々視察を行ったので、その概要についてまとめて報告する。

1.タイ、ベトナムと日本の関係

1980年代後半以降、日本企業は円高を背景に積極的にタイに進出し、タイの経済成長に貢献した。現在、在バンコク日本人商工会議所への加盟企業は1,250社を数えると言われており、1997年7月に顕在化した通貨経済危機に関しても、日本は大規模な資金的・人的協力を実施した。日タイ経済連携協定の締結もあり良好な関係を維持している。

ベトナムにおいては、1989年頃よりドイモイの成果が上がり始め、1995～1996年には9%台の高い経済成長を続けた。しかし、1997年に入り、成長率の鈍化の傾向が表面化したのに加え、アジア経済危機の影響を受け、外国直接投資が急減し、1999年の成長率は4.8%に低下した。その後、成長率は6.7%（2000年）6.8%（2001年）と改善され、2005年には8.4%に達した。特に2000年から施行された会社法により、民間企業の設立手続きが簡素化された結果、企業設立が加速し国内の景気回復に貢献している。

近年ベトナムは一層の市場経済化と国際経済への統合を押し進め、WTOへの正式加盟を2007年1月に果たしたことは記憶に新しい。日本は1992年11月以降経済協力を再開。日本は現在ベトナムにとって最大の援助国となっている。2007年度の援助誓約額は、円借款、無償資金協力、技術協力合わせて総額約1,232億円である。また、在越日系企業数は669社（ハノイ：282社、ホーチミン387社（2007年12月1日現在））となっており、ベトナムにおける親日感情も非常に良好である。

2.ベトナム・ホーチミン市の状況

ベトナム最大の都市であるホーチミン市は人とバイクが溢れている。通勤ラッシュを過ぎても道路上はとにかくバイクとクラクションの洪水である。日本のような交通秩序のしっかりしたところで育った人間には、到底自分で運転できるような交通環境ではない。また、市内の市場は平日の昼間でも活気があふれている。バイクに比べれば車

の数は少ないが、それでも郊外から市内へ入る道路には交通渋滞の発生もある。

また、走っている車をよく観察していると、意外なほど高級車が多いことに驚かされる。道端で食事を取っている若者がいる脇をベンツやレクサスが通り過ぎていく光景に、予想をはるかに超えた格差社会になっていることを強く感じた。

	タイ	ベトナム	日本
国土面積	513,115Km ²	329,560Km ²	377,835km ²
人口	約62百万人(2005年)	約84百万人(2006年)	約127百万人(2006年)
首都	バンコク	ハノイ	東京
日本との時差	－2時間	－2時間	－
日系自動車進出メーカー	いすゞ、トヨタ、日産、日野、ホンダ、マツダ、三菱、三菱ふそうトラック	いすゞ、スズキ、ダイハツ、トヨタ、日野、三菱、三菱ふそう	－
1人当たりGDP(2006年)	3,179ドル	715ドル	33,100ドル
経済成長率	4.8%(2007年)	8.17%(2006年)	2.1%(2006年)
失業率	1.5%(2006年)	4.4%(都市部2005年)	4.0%
自動車普及率	9人/台	300人/台	2人/台

ベトナム・ホーチミン市の様子



ベタン市場



押し寄せるバイク



路上で食事をとる人々



走り去るレクサス



■トラック部会 車輛運搬車分科会

期間：2007年11月26日～30日
事務局 斉藤 清（記）

1.はじめに

トラック部会車輛運搬車分科会では、アジア地域の自動車産業の拠点の一つであるタイの車載状況を知るため、車両操作場の視察を行った。

また、同時に自動車産業界の状況をベトナム自動車産業協会からうかがうことができた。（いすゞベトナム社の見学も実施したが、本稿では省略する）

2.視察先

トヨタ輸送タイランド(株)

車載車からの車両積み降ろし状況の視察を行った。車両輸送用の車両はほとんどがフルトレーラで、使用トレーラは「PANUS ASSEMBLY」という現地メーカーで製造されており、構造、作動方式、積載方式は日本と同じであった。

また、積み込み作業は「Yooshi!」の声で安全確認、教育研修室には、ビデオや模型が用意されていて、日本と同様に商品自動車の積み降ろしと運行に対する指導と教育が行われていた。安全に対する認識のレベルの高さを実感することが出来た。



現地製のトレーラ



積み込み作業風景



ビデオによる教育



教育用の模型

トヨタモータータイランド(株)表敬訪問

隣接するトヨタモータータイランド(株)本社を表敬訪問し、活発な事業展開をしている同社の概況についてうかがった。

- ・場所 サムロン（本社） ・設立 1962年10月
- ・資本金 7,520百万バーツ（約250億円）
- ・全従業員数 13,000人
- （サムロン工場、バンボー工場、TAW工場、ゲートウェイ工場、120販売店（トヨタ） 3販売店（レクサス）の合計）
- ・株主 トヨタ自動車(株)86.4%、
現地資本13.6%（サイアムセメント10%）

サムロン工場の概況は次のとおり。

- ・生産能力 218,000台/年
- ・サムロン本社工場 従業員 3,600名
- ・土地面積 43万m² ・建屋面積 15万7千m²

ベトナム自動車産業協会

ベトナムの自動車工業発展と確立に向けた中心的役割を担うべく結成されたメーカー団体で、いすゞ、スズキ、日野、ホンダ、トヨタ、三菱の日本メーカーやメルセデスベンツ、フォードGMなど17メーカーが加入している。

ここでは、ベトナムの自動車政策等について話をうかがうことが出来たが、政府の政策の方針転換が多く、製造メーカーの多くが対応に苦慮しているようであった。社会主義国の複雑な一面をうかがい知ることが出来た。



Binh副会長との懇談会

■参加メンバー

氏名	会社名
田村 慎一	団長 横浜名ワークス
細谷 貞治	副団長 細谷車体工業(株)
小出 達美	横浜名ワークス
川崎 博史	細谷車体工業(株)
赤城 英夫	細谷車体工業(株)
片山 尚一	丸文
瀬戸 幸雄	新明工業(株)
斉藤 清	(社)日本自動車車体工業会

■バス部会 資材委員会

期間：2008年1月20日～26日
事務局 花石 昇（記）

1 はじめに

バス部会資材委員会の視察目的は、ベトナムの部品メーカーが今後バス部品の調達先になりえる可能性について調査するというもので、バス部会としては初めてのベトナム訪問になる。

2 視察先

視察先会社概要については、下表に示すとおりであるが、ベトナム南部のホーチミン市周辺の企業の中からプレス、ダイキャスト等の小物金属部品や樹脂、ゴム関係の部品メーカの中から主に自動車関連部品を生産している会社をピックアップして行った。

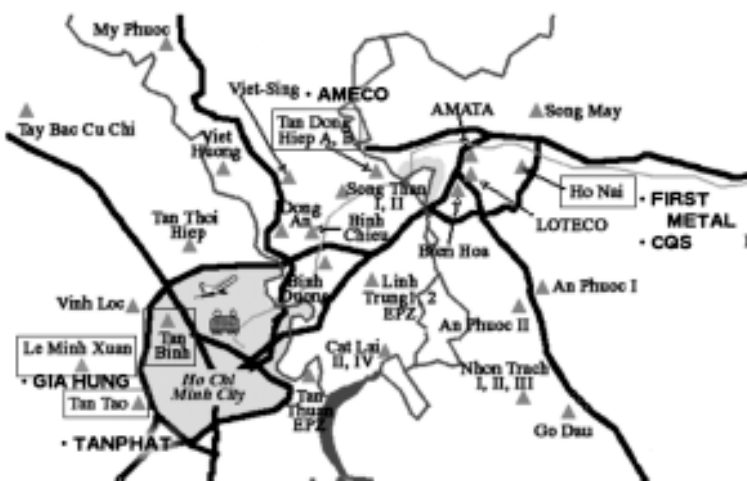
視察先は純ベトナム資本でベトナム向けの部品だけを作っている会社から、台湾の資本が入った経営者も台湾企業の出身者という会社までさまざまであった。

3 視察結果概要

コスト面では人件費が圧倒的に安い、優位性が非常に高いことは改めて書くまでもないが、ある会社では台湾製品よりさらに15～20%のコスト低減が可能というような話も聞くことができた。

品質面については、全体の印象としては経営者の考え方や取組み姿勢がまだまだで、その結果、良い品質の製品を安定して生産できる実力を備えるまで至っていない会社が多かった。ただし、外国企業出身の経営者については、日系企業等から得た知識や考え方に基づいて、品質管理を行っている会社もあり、品質重視

ホーチミン市周辺の工業団地



訪問会社概要一覧

会社名	FIRST METAL	MGA	AMECO	TANPHAT	ANLAP	THANH DANH	GIA HUNG	CQS
製造品目	アルミロスト ワックス プレス部品	樹脂 インジェクション 部品	メタル フォーミング マシン	樹脂成型 ワイヤーレス 電気配線	樹脂 インジェクション 製品	ゴム部品	アルミ鋳造 ダイキャスト 部品	アルミ鋳造 アルミ鍛造 ダイキャスト部品
資本金	16,000万円	—	11,000万円	30,000万円	11,000万円	11,000万円	7,600万円	330,000万円
従業員	145	65	130	280	100	120	50	650
海外取引有無	無	日本向20%	隣国向30%	有 日本向直も	有 欧州向	有 少量	有 オーストラリア	有 米フォード
型内製可否	可	可	可	不可 台湾外注	可	不可 外注	可	可
所在地 (工業団地)	Ho Nai	Tan Binh	Tan Dong Hiep B	Tan Tao	7-カン区	12区	Le Minh Xuan	Ho Nai

で安定した生産をするために、経営者自らが勉強し、知恵を絞っている会社も多数あると思われる。

4. 視察先での主なトピックス

FIRST METAL社

社長は台湾出身。品質に対しての取組みがよくわかった会社であった。具体的には現場に掲示された不良品見本や、不良率推移等の掲示により、品質状況が誰にでも見えるようになっていた。

TANPHAT社

FIRST METAL社同様、社長は台湾出身。工程内に作業標準を掲示し、作業者へ正しい作業方法を徹底していた。



品質指標の掲示（FIRST METAL社）作業標準の掲示（TANPHAT社）

工場内作業環境

今回の視察では部品メーカー8社を視察したが、どこで何をしているか、わからないような工場から作業エリアと通路を分け、整然とした工場までさまざまであった。当然、品質意識の高い会社は整然としている。ベトナムの工場には、このような大きな格差があると思われる。



非常に環境の悪い作業場



整理された工場

■参加メンバー

氏 名	会 社 名
青柳 浩太郎	団長 西日本車体工業(株)
吉田 博明	ジェイ・バス(株)宇都宮事業所
小嶋 明	ジェイ・バス(株)小松事業所
市川 貴雄	ジェイ・バス(株)小松事業所
花石 昇	(社)日本自動車車体工業会

■資材部会

期間：2007年11月19日～23日
事務局 信澤 幸男（記）

1 はじめに

今回の視察は、「ベトナム自動車産業の現状と今後の発展」を肌で感じるために実施した。

今回は、前ジェイ・バス(株)の社長であり、今回新入会となったTDF(株)の滝沢社長の紹介により日系企業として活躍しているいすゞベトナム社を中心にホーチミン市内の自動車関連工場等を視察した。

2 視察先

いすゞベトナム社

代表者の本多社長よりベトナムの歴史、経済状況から、日系企業としての苦労等のレクチャーを受け、その後工場内を視察した。いすゞベトナム社では社会主義の国でありながら、これまで労働争議は行われたことがないという。

当工場概要

設 立：1995年10月 資本金：1,500万USドル

出資比率：いすゞ35% 伊藤忠35% 現地30%

代 表 者：本多 実 従業員：283名

事業内容：中・小型商用車、Pickup、AUV（アジア
ン・ユーティリティ・ビークル）の輸
入・組立・販売生産

販売実績 2005年：2,799台 2006年：2,621台



いすゞベトナム正門前にて



工場内の作業風景（左）とトラック製造ライン（右）

タイトワン輸出加工区

ベトナムには、海外企業も含め企業誘致する工場団地とベトナムからの輸出を目的とした企業が集まり、ベトナム政府がその立地条件を活かして指定する輸出加工区がある。

今回はその輸出加工区の一つであるタントワン輸出加工区を訪問した。ここは、台湾企業が70%の資本を出資しているベトナム政府との合併会社であり、ベトナムの経済事情について種々、意見を交換した。

SAMCO社

SAMCO社はホーチミン市の市営会社であり、グループ全体で約1万人以上の従業員が働いている。今回は、バス、電車の製造を行っている工場を視察した。

この工場は、バスシャシ、バスボデー、電車、完成車の4つの工場建て屋で構成されている。現在、生産量の拡大に伴い新しい建て屋を増設中であった。

当工場概要

SAMCOグループ従業員：グループで10,000人以上

当工場概要：従業員：260名

面 積：50,000㎡ 月産：100台（国産のバスの41%）



SAMCO社にて

3.視察結果概要

ベトナムの交通手段はバイクが主流で、大人1人に1台の割合でバイクを所有している。ベトナム人の年間所得はバイクの購入代金にほぼ等しいと言われる経済状況を考慮すると、その購買意欲は驚異的である。

自動車の普及はこれからであり、今後の市場経済の発展により進むものと思われるが、道路の整備や駐車場等のインフラの整備が立ち遅れていることに懸念もある。

ベトナムは日本と似ていて非常に勤勉で、まじめな国民性だと言われている。歴史的に非常に不幸な経験をしているが、それらに負けない強さをもっていることも今後の発展に期待を持たせるものである。

■参加メンバー

氏 名	会 社 名
泉 龍彦	団長 クラリオン(株)
杉本 真	レシップ(株)
福西 紀雄	天龍工業(株)
滝沢 聡	TDF(株)
平本 康富	平本工業(株)
小澤 賢記	ゴールドキング(株)
久保 航一	(株)昭和
吉川 徳雄	(株)デンソー
中村 和彦	レシップ(株)
松岡 義久	クラリオン(株)
羽深 隆	(株)羽深製作所
信澤 幸男	(社)日本自動車車体工業会

第1回 技術発表会を開催

中央技術委員会（委員長・田中勝志・極東開発工業㈱取締役社長）では、1月17日に自動車会館1階会議室において第1回技術発表会を開催した。

委員会で調査研究した結果をJABIA規格化した事例や会員会社の技術情報を共有し、架装業界全体のレベルアップを図ることを狙いとした5テーマであり、内容は純粋な技術発表だけでなく新開発商品の紹介も含めて幅広い内容とした。当会会員を対象に受講者の募集をしたところ合計111人（うち、自動車専門誌3社）が出席した。

発表会は、田中委員長の挨拶に続き、部会を代表して次の5氏が普段から実力を蓄積してきた事項を受講者にわかりやすく説明した。



●発表事例1・バス部会
ワンマン機器の標準化
（次世代ワンマン機器通信仕様の検討）

三菱ふそうバス製造㈱生産管理部
渡辺 敏典

ワンマンバス用案内放送、運賃収受、運行管理機器等の発展は目覚しく、これらの機器間通信においてもデジタル化が進み、1対1の通信から1対複数、複数対複数の通信へと変化しつつある。

しかし、個々の機器が進化する一方、システム全体の規格化の遅れや搭載機器の種類や機器メーカー違い等によりシステムが複雑化し、メンテナンス性の悪化、機器間連携の混乱、車両ハーネスの複雑化、新規システム移行への障害となっている。

このような状況の中、バスユーザー、機器メーカー、ボディーメーカーの立場で高効率化とワンマン機器の更なる発展のため、次世代型のワンマン機器間通信の規格化を図る。

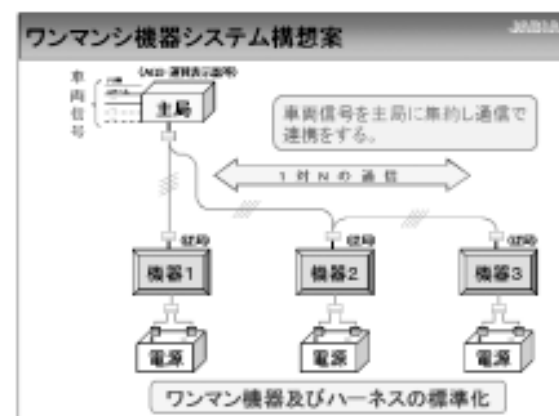
1.ワンマン機器の集中制御通信

路線バスのワンマン機器群は、目的地に向けて走っていく間に、一つにまとまった形で動作し合うのが集中制御通信である。

現状は、機器毎に必要な車両信号（扉開閉、スモールランプ、停車など）を接続するが、新規格では電源以外の車両信号を主局となる機器に集約し、従局の機器への入出力は全て通信により行う。

通信に使用する回路、ハーネスおよびコネクタを統一することにより、合理的な配線配策が可能となり、ワンマン機器およびハーネスの標準化が図れる。パソコンは電源とLANケーブルがあればどこでも使用できる。それをワンマン機器でバスの車内において行うという発想である。

挨拶をする田中委員長



2.ワンマン機器に関する技術交流会、勉強会を開催

ワンマン機器に対するユーザーニーズ把握のため、関東地区および関西地区のバスユーザー7社と技術交流会を実施。また機器メーカーの専門家を招きワンマン機器のソフトや通信の勉強会を実施し、情報収集と知識向上を図った。

このシステム構想を実現させるには、新たな通信方式として自動車用通信で実績のあるCANが有望と考えた。

委員会を招集し、機器メーカー9社と審議を重ねた結果、CANは性能面で圧倒的に優れているが課題も多く、一方現行カレントループ通信に不足している事柄を明確化し、ルール化することでシステム構想を実現することが可能であるという結論に達した。

JABIA規格B1006-1999ワンマン機器通信推奨仕様の全面改訂を実施、故障診断機能として断線検知機能を付加し、バスユーザー、機器メーカー、ボディーメーカーがそれぞれの立場でメリットのある次世代通信仕様が完成した。



●発表事例2・特装部会
ミキサ車の電子化
（低騒音・省エネルギー・型コンクリートミキサ車）

KYB㈱技術部
笠原 哲男

ミキサ車はバッチャプラントで製造した生コンクリート（以下生コンと称す）をドラム内に受け入れ、生コンの性状を維持しながら土木・建築現場まで輸送する車両である。停車してエンジンを高速に回転させて作業することが多く、騒音問題・燃費が劣るなどの環境問題や誤って生コンを路上へ垂れ流す、路上駐車による交通障害などを引き起こすということも、まれにあった。

今回、ミキサ車の駆動制御・操作系を電子化し課題を改善した。

ミキサ車の電子化概要は、図のとおりである。
電子制御ミキサシステム



停車作業時にドラム内の負荷に応じてエンジン回転数を制御可能とし低騒音・低燃費化するとともに、プログラムによる自動運転、更に走行時に誤って排出回転させない制御も取入れている。

低騒音

車両横7m～高速回転時6dB(A)の低減
（当社車両：82～76dB(A)）

低燃費

標準停車作業～14%の燃費低減
（当社マニュアル車と電子制御車の比較）

自動混練

排出前などの生コン練混ぜ（ドラム高速で30sec）
自動洗浄

ドラム内に洗浄水を入れ正転と逆転の繰り返し（ドラム高速で約80sec）

ミキサ車の電子化によるシステムとプログラム制御により、従来のシステムで難しいとされていた低騒音・低燃費化の環境改善や自動化を進め成果はあったが、更にお客様の使いやすい商品化を目指し、活動を進めていく。



●発表事例3・小型部会
QFD活用による
品質を基軸とした経営

日産車体㈱車両要素開発部
前川 久志

当社は、「品質を基軸とした経営」を実現するための方策として、品質機能展開（QFD）を導入し「論理的思考プロセス」を生かした品質経営の進化を目指している。その概要を紹介する。

1.ものづくりの環境変化におけるQFDの効果

超短期開発と品質の両立、グローバル化における品質確保、IT化・標準化が進む中での人材育成など、近年の環境変化に対応すべき課題は多い。

当社は、QFDをこれら多くの問題を効率よく解決できる最適なツールと判断し、全社方針管理として推進している。

QFDを活用することで、「設計の質向上」「設計意図の共有化・可視化」「海外とのコミュニケーションの円滑化」「お客様視点での品質思考や論理的思考力の醸成」「データに基づく企業風土への改善」などが図られつつある。その結果として、お客様の品質アンケートの向上と共に、開発・生産準備費用の低減など、経営に貢献する効果が生み出されている。

2. QFD取り組みの特徴点

当社の特徴点は、活用領域の拡大、目標達成シナリオシート、全社方針管理の3点である。

については、従来の新技術主体から、お客様アンケート全項目を対象にQFDを適用し車両全体の不満不適合の解決を行っている。は、品質目標を達成するサクセスシナリオを明確にする目的で、他のQFDツールに加え設定しており、データに基づき考え方を整理、レビューを通じて課題を共有化、結果の振り返りというPDCAを回している。

QFDは、品質経営を実践する上で有効なツールである。今後も、予測技術・定量評価技術・計測技術を進化させて行くと共にQFD活用と合わせ、更なる品質の向上を図って行きたい。



当社は、お客様に最高のご満足を感じていただける製品をお届けするために、今後も「品質を基軸とした経営」を行っていく。そのための方策の核としてQFDを中心とした活動を愚直に継続して実施して行く方針である。



- 発表事例4・トレーラ部会
海上コンテナトレーラの
横転等の事故防止に向けた
ハード面の取り組みについて
- 東急車輛製造㈱特装自動車事業部
芳崎 春樹

自工会大型車部会に協力して作成した「連結車の横転事故回避に対する指導と安全技術～セミトレーラの横転事故を背景として～」から安全に関する取り組みと安全装置の現状、また横転の発生要因とその対処方法について説明する。

- (1) 車両の安定化装置、ブレーキについて
設定済みの車両の安定化装置
ABS、ASR、EBS、横転抑制コントロール、電子式車両安定制御装置は既に開発商品化。
・ABSのみ法による装備の義務づけあり。
・他は機種により標準装備(オプション設定あり)
ブレーキ
中期ブレーキ規制により、基本的な性能耐を向上
・耐フェード性基準の取り決め、等
- (2) 連結車の運動特性について
横転発生メカニズムを算定式、横転要因
横転事例と簡易算定式
安全マージンの組み合わせを提案

重心高の高い商用車については、運転者もその限界を認識し、十分に安全マージンを確保した運行をする必要がある。中でも重心高が高くなる可能性が大きい海上コンテナトレーラについてはより一層の注意を払う必要がある。

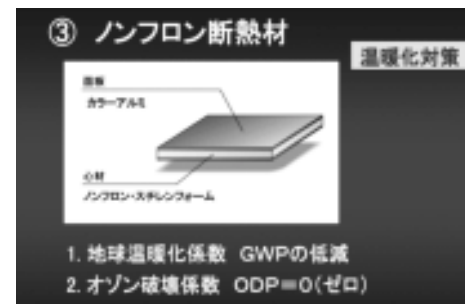
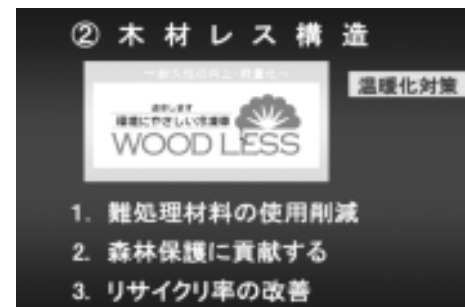
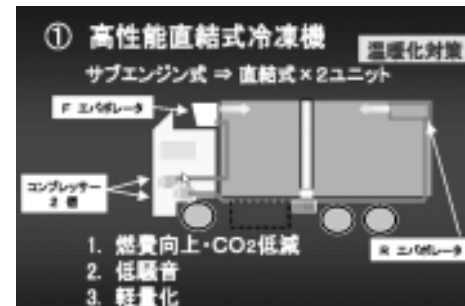


- 発表事例5・バン部会
環境にやさしい冷凍車
- ㈱矢野特殊自動車バン車事業部
三丸 和也

われわれのお客様である食品輸送業界の課題としては、次の3つが上げられる。

- 地球環境への配慮や温室効果ガスの低減を主とするグリーン経営の認証取得
- 原油価格高騰による燃料費や梱包資材の負担増加に伴う更なるランニングコストや経費削減
- 食の安全への対応として、庫内の温度管理や衛生管理等の高度な輸送品質の確保
- これらの課題解決として『環境にやさしい冷凍車』を提案する。

- 1.地球環境および経費削減への対応
高性能直結式冷凍機の採用
燃料消費量の削減によるCO₂削減効果 / 低騒音 / 軽量化 / ランニングコストの低減
木材レス構造 : 難処理材の使用削減 / 森林保護 / リサイクル率の向上
ノンフロン断熱材の採用
- 2.輸送品質向上への対応
天井結露防止シート
庫内天井面の結露を抑えることで結露水落下による梱包資材の汚れや破損のクレーム防止に効果がある。
サニタリーマルチフロア(床材)
凸凹の形をした清掃しやすい形状のため、ゴミや水が溜まりにくく衛生的である。
サニタリーラッシングレール(積荷保持レール)
上下の長穴によりレール内部にゴミや水が溜まりにくく衛生的である。



- 3.これからの環境への取組み
製造工程でのVOC・温室効果ガス排出量の削減推進
架装物の環境負荷物質(SOC)の使用量削減推進
とリサイクル性向上車体の研究

本部だより

■第194回理事会を開催

1月17日、当会会議室において第194回理事会を開催した。

審議事項「会計処理規程変更の件」、「支部への補助金支給変更の件」、「規程類改訂の件」の他、(詳細議題については20頁車体工業会活動報告・第194回理事会参照) 中央技術委員会関係報告、環境委員会関係報告等の報告事項について資料により説明し、了解を得た。



理事会

■理事会メンバーによる工場見学会を実施

今年度から新たな取組みとして、理事会メンバーでの見学会を企画し、第1回の今回は2月15日、浜松ホトニクス㈱中央研究所、㈱浜名ワークスの見学会を実施した。

浜松ホトニクス㈱は、日本のテレビジョン技術の祖、高柳健次郎博士が昭和28年に創業。日本のみならず世界の「光科学」の最先端をいく会社であり、またノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏(東京大学名誉教授)が作ったカミオカンデ内の光電子増倍管(手作り品)を製造した会社としても知られている。

極微弱電流計測技術を使って、細胞や組織を通して得られる光のいろいろな性質をリアルタイムで測定し、植物の生態の解明を目指すバイオホトニクス研究、法の規制外である光による無線システムの研究、光センサー技術と光計測技術を応用したポジトロンイメージング装置(PET)の研究・開発:がん検診に使用等、知らなかった光に関する世界を垣間見ることが出来た見学会であった。

㈱浜名ワークスは、トラック、トレーラ、バン部会に所属する会員で、昭和17年に浜名郡笠井町にて創業を開始、平成7年に現在の浜松市上島に本社・工場を新設移転した。

「多様なニーズにお応えするため、多種少量生産にこだわり、ユーザーの満足を第一に考えたボデー作りを続けている」「環境マネジメントシステムの維持向上により有害な環境影響を低減する設計、原材料、加工方法の変更など、環境汚染の予防に力を注いでる」



等の説明を受けた。

工場内は、夏場の作業環境向上のためのミスト発生装置が所々に設置されており、作業者にも配慮された工場であった。製造そのものは、多種多様の車種に対応するという考えのもと、さまざまな製品が整理整頓された工程で製造されており、参加者からは参考になる工場見学会であったとの声が聞かれた。

■常任委員会を開催

1月17日、当会会議室において常任委員会を開催した。

「2007年度本部・部会別3/4期実績まとめと課題について」、「2007年度本部・部会別予算まとめと課題について」、「保安基準等関係法令の展開方法について」等について説明し、了解を得た。

また2月14日には、浜松アクアシティー「ホテルオークラ」会議室で開催、「2008年度重点活動に向けての『車体工業会の現状と課題』について」、「各部会の現状と課題について」、「2007年度決算見込み(本部)/新会計科目の表記(本部+部会)について」、「2008年度収支予算(案)(新科目表記)について」等を説明した。2008年度は今までの「不正改造根絶活動」により不正がなくなったことを受け、環境対応、安全対応、中小企業支援を重点に活動することが合意された。



■常任委員会メンバーによる航空自衛隊見学会を実施

2月14日の常任委員会にあわせて、航空自衛隊浜松基地の見学会を実施した。

浜松基地は航空機パイロットや航空自衛隊の主要備品の整備などの教育が主たる任務とのことであったが、実際にF-15/F-2戦闘機、T-4練習機を間近に見学させていただいた。

日頃、接することの出来ない防衛関係の施設、航空機の見学が出来、また、ジェット戦闘機のパイロットから直に防空に関する話、体験談を聞く等、貴重な体験が出来た見学会であった。



■中央業務委員会を開催

中央業務委員会（委員長・比企能信・日本フルハーフ㈱取締役社長）では、12月11日、当会会議室において13名の委員が出席し、第3回委員会を開催した。

不正改造根絶分科会、規制緩和対応分科会、会員拡大分科会から2007年度事業計画に沿って「実績/課題」を委員長へ報告、今後の進め方等を論議した。主な項目は次のとおり。

- (1)「不正な二次架装」実態調査の回答進捗を行う。
1月末に回答率：100%となるようにフォロー
今回の結果により、今後の方向を決める。ユーザーへの不正改造根絶のアピールは継続する。
 - (2)倫理規定採用状況について
今後、不正改造に係わらないことに関する倫理規定（案）を詰めて展開する。
 - (3)規制緩和要望については、12月末に集約し、分科会で内容を精査した上で提出することにした。
 - (4)各分会で選出した新会員候補への勧誘を確実に実施する。
- なお、今後の予定は、第4回を3月4日に開催。

■支部連絡会を開催

支部連絡会（議長・比企能信・日本フルハーフ㈱取締役社長）では、12月19日、当会会議室において2007年度第3回支部連絡会を開催した。

比企議長の挨拶に続いて、本部事務局から本年度の支部連絡会活動状況報告および中央業務委員会が取り組んでいる「不正改造防止の根絶活動」の近況報告が行われ、各支部において、不正な二次架装、不正改造を行っている者の情報を得たり、不正改造車を見つけた場合には「不正改造車110番制度」を活用して関係部署に通報することを要請した。

支部事業計画の推進状況では、各支部から支部会員のカバー率アップ推進状況、支部地域会員の正会員化、研修会・見学会等について報告があった。

2008年度支部助成金の見直しについては、本部から支部助成金の一部見直しと手続きの簡素化を提案し、承認された。

最後に環境の取組状況について、環境委員会から報告があり、本部事務局からも「当工業会の環境への取り組み状況」について説明があった。

■第8回労政合同分科会を開催

12月7日、日本自動車部品工業会と合同で、愛知県小牧市の日本特殊陶業㈱小牧工場において労政合同会議を開催した。当会からは新たな会員も出席し、総勢21名での開催となった。

まず、会議の前に、日本特殊陶業㈱の小牧工場を見学。同社は各種プラグを始めとする自動車関連事業、パソコンの基板となる電子部品、また、セラミック関連事業を行っており、今回は、電子部品の見学となった。現在の基板は各種用途に応じてより微細に高密度に進化して高周波多層回路基板となっている。

分科会では、鶴田座長（NOK㈱業務本部副本部長兼人事部長）より挨拶の後、情報交換テーマ「労働諸条件要求調査について」各社より説明があり、報告テーマとして、事務局より「高齢者雇用について」、「請負事業について」、「最近の労働・社会保障行政、労組の動きについて」等報告があった。

部 会 だ よ り

バス部会

■第42回バス車体労使懇談会を開催

12月13日、バス部会では年度活動計画事業として、車体労使懇談会を車体産業労働組合連絡協議会加盟4労組と関連するバス部会会員会社の労使15名が参加して、東京にて開催した。

経営側を代表して田中部会長（三菱ふそうバス製造㈱取締役社長）の挨拶の後、大泉康夫車体産業労働組合連絡協議会議長（三菱ふそう労働組合）からの「バスを取り巻く諸課題や環境の変化等について」に関する質問に対して会社側（バス部会各委員）から説明、

意見交換等を行った。

本会での意見交換を通じ、組合側と会社側でバス業界を取り巻く諸課題について共通の認識を持つことができた。



バス車体労使懇談会

■欧州視察報告書まとめ会・反省会を開催

1月30日、バス部会では昨年10月に実施した「欧州バス見本市・バス関連施設視察」に関する報告書の最終まとめ報告と反省会を田中視察団団長（部会長）をはじめ草刈副団長（ジェイ・バス㈱専務取締役）以下、視察参加メンバーが参加し、富山市にて実施した。

当日は各メンバーの報告書の内容確認と視察内容や運営等に関する課題と今後の対応について調整を行った。本報告書はバス部会総会にて年度事業の報告書として提出する。

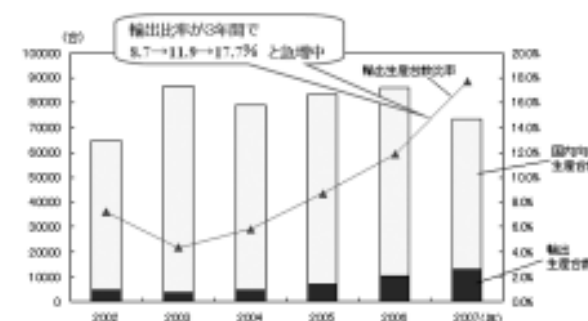
特装部会

■6年間の特装車生産台数を調査

特装部会（部会長・井上善量・新明和工業㈱常務執行役員）では、2月14日、過去6年間の特装車の生産台数をまとめた。

総生産台数は、下図のとおりNOx・PM法特需による2003年がピークで8.6万台。比較的安定していた特装車も2007/2006年比は14%の減少となり、今後、更に厳しい状況が見込まれる。このような状況の中、輸出車の比率は3年間急増中。輸出台数の内訳はダンプ車の比率が約9割、続いて環境衛生車、ミキサ車の順。今後、更に生産動向を注視していく。

輸出生産台数推移(特装車)



特種部会

■三菱重工㈱長崎造船所工場見学会を実施

特種部会（部会長・古庄忠信・㈱イズミ車体製作所代表取締役社長）では、12月7日に異業種工場見学会として三菱重工㈱長崎造船所の工場見学会を実施した。

長崎造船所内の資料館にて日本の重工業の歴史そのものに触れることが出来た。また、最新の船舶製造現場では、LNG船、豪華客船と多岐に渡る船舶の製造、更に、発電プラント等、幅広い重工業に携わる見学で、その高いレベルでの物造りの現場を見ることが出来たのは、非常に有意義であり、参加した一同、大変感銘を受けた。

トレーラ部会

■㈱タダノ志度工場見学会を実施

トレーラ部会サービス委員会（委員長・曾我善規・日本フルハーフ㈱サービス部長）では、1月24日、㈱タダノ志度工場見学会をサービス委員をはじめ業務委員、技術委員が参加して行われた。

志度工場では、舗装道路、不整地路面適応の高架・橋梁工事で活躍する超大型の「オールテレーンクレーン」、不整地、軟弱地盤での走行が可能で機動性に優れたコンパクトな「ラフテレーンクレーン」の組み立てラインを見学した。

国内、海外市場で品質、技術、メンテナンスにおいて高い評価を受けている工場を見ることが出来、有意義な見学会となった。

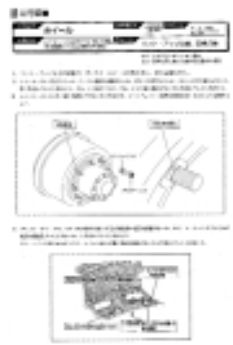


■「トレーラ定期点検整備の手引き」

改訂版を発行

国土交通省は平成19年4月に「自動車点検基準」および「自動車の定期点検および整備の手引き」を改訂したが、被牽引自動車は、他の車両と比較して構造が独特であることから、点検項目を規定する別表を事業用自動車等に適用するものから分離し、規定している。

これを受けて、自動車の点検整備関係の要点、点検



整備上の注意、トレーラ点検の実施方法の見直しを行い、改訂第3版として発行した。

また当会ホームページにも掲載し、広く活用をPRしていく。

資材部会

■TDF(株)工場見学会を実施

資材部会（部会長 泉龍彦・クラリオン(株)取締役社長）では、11月29日、30日宮城県のTDF(株)（滝沢聡・取締役社長）の見学会を実施した。

同社は日本民間鍛造メーカーとして大正7年に創業、高強度化、軽量化への対応等、変化し続けるニーズに応える高品質、コストに優れた製品を創出している。総従業員数約300名のうち、約190名が正社員となっている。見学後、人材確保と技術の伝承を中心に質疑応答が行われた。参加者からは「貴重な工場見学になった」との声が多く聞かれた。



支部だより

北海道支部

■2007年度年末恒例懇親会を開催

12月3日、札幌第一ホテルで北海道支部（支部長・原 忠彦・(株)パブコ北海道取締役社長）の年末懇親会を開催した。

当日は、竹村廣美氏（北海道日野自動車(株)取締役札幌支店長）から、ますます厳しい状況ではあるが、お互いのパートナーシップを発揮して、乗り切っていこうと挨拶があり、更に会員同志の交流も図れ、盛会のうちに終了した。

関東支部

■役員会を開催

12月13日、関東支部東京都会は、当会会議室において役員会を開催した。議題は次のとおり。

- 1 「道路運送車両法関係手数料令」の一部改正について
- 2 「審査事務規程（第42次）」の一部改正について
- 3 自動車NOx・PM法適合ステッカー制度について
- 4 方向指示器作動状態表示装置のリコール届出について
- 5 最近の原材料の高騰状況に関する情報交換

中部支部

■トヨタ車体(株)富士松工場、(株)東海特装車工場見学会を実施

中部支部（支部長・山崎茂雄・(株)東海特装車取締役社長）では、11月16日に工場見学会を開催した。参加者30名でトヨタ車体(株)富士松工場と(株)東海特装車を見学会を実施した。

トヨタ車体(株)富士松工場では、1BOX車のプレス、鈑金、組立、検査の量産ラインを見学しながら、工程改善事例の紹介をうかがった。

また、(株)東海特装車では工程説明の中に、カンバン方式、工程改善など一品加工オーダーメイドの生産でありながら、量産システムの効率的な方式が随所に取り入れられていて、同業である参加者にとって大きな刺激となった。



近畿支部

■研修会を開催

近畿支部（支部長・堀口昇一・須河車体(株)取締役社長）では、1月29日大阪市内で支部研修会を開催した。

研修会には41名が参加し、大阪府環境農林水産部環境管理室の方を講師にお迎えし、「平成21年1月より施行される大阪府流入車規制条例について」のご講演をいただいた。

今回施行される条例は、会員各社等においても浸透

がされていないため、ユーザーからのさまざまな問合せに対し、適切な説明が行える情報を入手出来、講演終了後は質疑応答も行われ、有意義な講演となった。

受講者は厳しい架装業界の昨今、近畿管内での行政上における情報を、真剣な眼差しで聞き入っていた。

講演終了後は新年会を開催し、近畿支部会員の団結が図れた一日となった。



四国支部

■徳島県に会員誕生！

四国支部（支部長・久保哲也・(株)タダノ執行役員）では、1月23日に臨時役員会を開催した。

中央自動車(株)、(株)四国車体の入会が承認され、新たに地域会員2社が誕生した。両社とも徳島県に本拠を置き、2社の加入により四国四県全てに会員が揃うこととなった。

これで今年度の新規入会は3社となり、四国支部は合計21社へと拡大した。

官公庁だより

■「審査事務規程」の一部改正について

—自動車検査法人—

自動車検査法人は、審査事務規程の第43次改正を行い、再検査等の規定を見直した（改正内容の全文は、自動車検査法人のホームページ<http://www.navi.go.jp/>を参照）。主な内容は、次のとおり。

衝突保護対策の対象としない座席の追加、防弾ガラスの透過率等の改正

- （1）衝突等による衝撃を受けた場合に乗車人員を保護するための基準が適用される座席から除かれる座席に後向きに備えられた座席を追加。
- （2）前面ガラスおよび側面ガラス（運転席より後の部分を除く）について、安全ガラスの基準に適合するものとして、米国において防弾ガ

ラスとして取り扱われている「AS10」のうち、可視光線透過率が70%以上のものを追加。

- （3）最低地上高の計算式端数処理について規定。

■「審査事務規程」の一部改正について

—自動車検査法人—

自動車検査法人は、審査事務規程の第44次改正を行い、雨天時の制動力の判定値等の規定を見直した。主な内容は、次のとおり。（改正内容の全文は、自動車検査法人のホームページ<http://www.navi.go.jp/>を参照）

1.制動力の判定値の改正

制動力の総和の基準（検査時車両状態の重量の50%以上）の適用を受ける自動車は、降雨等ブレーキローラが濡れている場合には、制動力の総和が40%以上であれば適合。

2.走行用前照灯および、すれ違い用前照灯の照射方向の判定値の改正

- （1）走行用前照灯の最高光度点の位置の範囲について、前方10mで上下方向は水平面より上方100mmから下方は前照灯取付高さの1/5まで、左右方向はそれぞれ270mmまでとした。

- （2）すれ違い用前照灯のエルボー点の位置の範囲について、前方10mで左右方向はそれぞれ270mmまでとした。

3.その他

- （1）配光可変型前照灯の技術要件の新設

走行状態に応じて前照灯の光度と光度分布を自動的に調整できる配光可変型前照灯について、国連協定規則の技術要件を適用することを規定。

- （2）点滅する灯火等の追加

点滅する灯火または光度が増減する灯火として認められるものに配光可変型前照灯、緊急制動表示灯および可変光度制御機能を有する灯火を規定。

- （3）速度抑制装置に係る不正改造の明確化

速度抑制装置が不正に改造されたと認められる場合には、基準に適合しないことを規定。

■パートタイム労働法が改正される

- 厚生労働省 平成20年4月1日施行 -

パートタイムという働き方を選んだ労働者が、その能力を有効に発揮することができる雇用環境を一層整備するため、パートタイム労働法が改正される。

パートタイム労働法の対象となる「パートタイム労働者」とは、「アルバイト」「嘱託」「契約社員」「準社員」などの呼称にかかわらず、1週間の所定労働時間が同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い労働者のことをいう。

＜ 改正のポイント ＞

- (1) 一定の労働条件について明示が義務化される。
- (2) 労働者の求めに応じて、待遇の決定に当たって考慮した事項を説明することが義務化される。
- (3) パート労働者の働き方に応じて、均衡のとれた待遇の確保が求められる。
「正社員と同視すべきパート労働者」(職務内容、人材活用の仕組みや運用等が通常の労働者と同じで、契約期間が実質的に無期契約となっている者)の待遇を差別的に取り扱うことが禁止される。
以外のパート労働者についても、その働き方に応じ、賃金、教育訓練、福利厚生について、通常の労働者との均衡を考慮することが求められる。
- (4) 正社員への転換を推進するため何らかの措置を講じることが義務化される。
- (5) パート労働者からの苦情の申し出に対応することが求められる。

改正パートタイム労働法関係の詳細は、以下の厚生労働省ホームページを参照。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/06/tp0605-1.html>

■平成20年度予算に係る新連携対策補助金の公募について

- 中小企業庁 -
中小企業庁では、中小企業が事業の分野を異にする事業者と連携し、新事業活動を行うことを支援することを目的として、平成20年度予算において新規採択のための公募を行うことになった。公募の内容は次のとおり。

【事業概要】

- (1) 事業化・市場化支援事業
複数の中小企業が連携して行う新事業に必要な新商品開発(製品・サービス)に係る実験、試作、研究会、マーケティング調査等に係る経費を補助。
- (2) 連携体構築支援事業
連携構築に資する規約の作成、コンサルタント、マーケティング調査等に係る経費を補助。

【公募期間】

- (1) 事業化・市場化支援事業
 - ・第1期：2月8日(金)～2月29日(金)
 - ・第2期：7月1日(火)～7月31日(木)
- (2) 連携体構築支援事業
 - ・7月1日(火)～7月31日(木)

【公募資料ダウンロード】

- ・平成20年度新連携対策補助金公募要領
 - ・申請様式
- 詳しくは中小企業庁ホームページを参照。
http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/shinpou/080206shin-renkei_koubo.htm

■原油価格高騰に伴う中小企業、各業種、国民生活等への緊急対策の具体化について
- 総務省 -

原油価格の急激な高騰は、国民生活を直撃するとともに、十分に価格転嫁を行うことが難しい下請事業者をはじめとする、中小企業や各業種に深刻な影響を与えている。こうした状況を踏まえ、「原油高騰・下請中小企業に関する緊急対策関係閣僚会議」を開催し、6項目の柱となる対策の「基本方針」を策定した。

1. 中小企業など業種横断対策
2. 建設業、漁業、農林業、運送業、石油販売など業種別対策
3. 離島、寒冷地など、地方の生活関連対策
4. 省エネ、新エネなど構造転換対策
5. 国際原油市場の安定化への働きかけ
6. 石油製品等の価格監視等の強化

詳しくは首相官邸ホームページを参照。
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/genyu/index.html>

会 員 情 報

代表者変更

- 準会員
タキゲン製造(株) 代表取締役社長 杉本直之

退 会

- 準会員
ナブテスコ(株)(資材部会)

訃 報

(株)仙台鈴木自動車工業代表取締役 鈴木 勇氏が2月5日、ご逝去されました。(享年61歳)氏は、1997年7月から当会理事および東北支部長として当会活動にも積極的にご尽力いただきました。
葬儀は2月16日、仙台市の仙台葬祭会館「斎苑」にてしめやかに執り行われました。謹んでご冥福をお祈り致します。



車体工業会活動報告

第194回理事会

開催日 2008年1月17日(木)

場 所 当会会議室

審議事項

- 第1号議案 会計処理規程変更の件
- 第2号議案 支部への補助金支給変更の件
- 第3号議案 規程類改訂の件

報告事項

- 1) 2007年度本部・部会別3/4期実績まとめと課題について
- 2) 2007年度本部・部会別予算まとめと課題について
- 3) 中央技術員会報告
保安基準等関係法令の会員への展開方法について
60周年記念 部会別車体産業史制作状況について
第1回技術発表会の開催について
- 4) 環境委員会報告
VOC自主行動計画進捗状況について
工場廃棄物排出量集計結果と今後について
CO2 2007年度自主行動計画フォローアップ結果について
- 5) 第40回モーターショー実施結果報告
- 6) 経済産業省関係情報
中小企業関係税制変更(案)について
原油高騰緊急対策政府(案)について
- 7) その他の報告事項
不正改造根絶活動の状況と今後について
2008年度車体工業会功労者推薦依頼について
2008年度主要会議日程について

月 度 活 動 状 況

- 12月
- 3日 中央業務・会員拡大分科会 当会
- 5日 特装・清掃車小委員会 "
- 環境・工場環境分科会 "
- 中央業務・不正改造根絶分科会 "
- バス・ワンマン機器小委員会 東京
- 6日 バス・資材委員会 当会
- トラック部会 "
- トラック・役員会 "
- トレーラ・サービス委員会 "
- 7～8日 特種・工場見学会 長崎
- 7～8日 労務・労政合同分科会 愛知
- 10日 トレーラ・技術委員会 当会
- 11日 中央業務委員会 "
- 12日 特装・サービス委員会 "
- バス・業務委員会 富山
- 13日 バス・ワンマン機器小委員会 当会
- モーターショー企画委員会 神奈川
- バス・車体労使懇談会 東京
- 14日 パン・技術委員会 当会

- 14日 環境・架装物リサイクル分科会 当会
- 17日 特装・ローリ技術分科会 "
- トラック・PR委員会 "
- 18日 バス・技術委員会 "
- 特装・じん芥車合同分科会 "
- 19日 支部連絡会 "
- 20日 特種・業務 技術委員会 "
- 21日 中央技術委員会 "
- 25日 特装・ダンプ車分科会 "

- 1月
- 4日 新春賀詞交歓会 ホテルオークラ
- 9日 特装・技術幹事会 当会
- 11日 特装・技術幹事会 "
- 16日 バス・技術委員会 "
- トレーラ・技術委員会 "
- 17日 常任委員会 "
- 第194回理事会 "
- 技術発表会 くるまプラザ
- 18日 バス・ワンマン機器小委員会 当会
- 20～26日 バス・資材委員会ベトナム視察 ベトナム
- 23日 労務・安全衛生統計WG 当会
- 24～25日 トレーラ・合同研修会 香川
- 29日 環境・架装物リサイクル分科会 当会
- 30日 環境・工場環境分科会 "
- バス・技術委員会 "
- 労務・安全衛生合同部会 栃木
- バス・欧州視察報告および反省会 富山

- 2月
- 4日 特装・ローリ業務分科会 当会
- 4～5日 特装・サービス委員会工場見学会 熊本
- 6日 バス・塗装デザイン研究会 当会
- 7日 トラック部会 "
- 7～8日 特装・コンテナ審査委員会 群馬
- 12日 トレーラ・技術委員会 当会
- 13日 バス・技術委員会 "
- 14日 バス・ワンマン機器小委員会 "
- トラック・車輛運搬車分科会幹事会 "
- 常任委員会 静岡
- 15日 理事会メンバー工場見学会 "
- トラック・PR委員会 当会
- 19日 トレーラ・サービス委員会 "
- 関東支部役員会 東京
- 20日 環境・架装物リサイクル分科会 当会
- 環境委員会 "
- パン・業務委員会 "
- 21日 特種・業務技術委員会 "
- 特装・じん芥車分科会 "
- 22～23日 欧州視察団工場見学会および報告会 神奈川
- 25日 特装・脱着車合同分科会 当会
- トラック・車輛運搬車分科会 くるまプラザ
- 26日 特装サービス委員会 当会
- 27日 トラック・車輛運搬車分科会 "
- 28日 広報委員会 静岡
- 環境・架装物リサイクル分科会 当会
- 29日 バス・資材委員会 "
- 中央業務・規格緩和対応分科会 "
- 29～1日 パン部会研修会 静岡

特種部会

少量多種の生産に対応しつつ 高い品質を確保

1. 部会概要

昭和29年に設立。特種車両を製作する会員で構成された部会で、現在は「特種用途自動車の構造要件」に記載のある車種のうち、主に次の車種を製作している会員で構成されている。

医療防疫用：レントゲン車、検診車、採血車、等
保健用：患者輸送車、車いす移動車、等
緊急用：救急車、警察車、護送車、標識車、等
公務用：図書館車、野犬捕獲車、等
作業工作用：水道作業車、道路維持作業車、等
検査測定用：路面測定車、探査車、等
放送通信用：衛星中継車、テレビ中継車、等
広告宣伝販売用：移動販売車、食堂車、等
サービス用：現金輸送車、教習車、活魚運搬車、等
娯楽用：キャンピング車、移動ハウス車、等

現在の部会は、35会員。

生産台数は、保健用、緊急用、サービス用、作業工作用、医療防疫用の順に多く生産している。近年の部会全体の暦年生産台数は、2003年の約16,300台をピークに2006年には約13,000台となっている。

2. 組織

(1) 2007年度役員は以下のとおり。

部会長 古庄 忠信 (㈱イズミ車体製作所 取締役社長)
副部会長 林田 廣一 (㈱林田製作所 取締役社長)
副部会長 五島 洋 (京成自動車工業㈱ 取締役社長)
監事 河野 美晴 (㈱河野ボデー製作所 常務取締役)

特種部会

業務委員会

委員長 保志 隆平 (ヤナセテック㈱取締役営業部長)
副委員長 伊藤 公一 (名自車体㈱取締役事業部長)
副委員長 北村 守 (㈱中北車体工作所社長)

技術委員会

委員長 高梨 洋一 (東京特殊車体㈱総務部部长)
副委員長 田中 敏夫 (㈱オーテックジャパン技術管理部部长)
副委員長 藤田 雄士 (京成自動車工業㈱取締役営業部長)
副委員長 三宅 直志 (トヨタテクノクラフト㈱生産本部主査)

(2) 委員会構成と活動内容

業務委員会

中央業務委員会活動内容と部会内の営業関係課題等を進捗。

- ・不正改造根絶活動の推進
- ・会員拡大の進捗
- ・部品共用化 / 共同購入の検討
- ・部会内サービス体制の検討
- ・異業種を含めた研修会 / 工場見学会の実施
- ・部会内情報交換

技術委員会

中央技術委員会活動内容と技術関係課題等を進捗。

- ・特種要件の国土交通省への各種要望、提案
- ・関係法令改正等への対応、意見照会、要望出し等
- ・自動車検査法人との技術検討会の実施
- ・JABIA規格の作成
- ・部会内情報交換



特種車いろいろ

マラソン
中継車



排水ポンプ車

トレーラ型
大型中継車



特殊救護車



部会・委員会紹介/部長インタビュー

特種部会

古庄 忠信 部会長に聞く

(㈱イズミ車体製作所取締役社長)

会員同士の部品共用化、 サービス体制の設立が重要課題

- 最近の特種車を取り巻く環境について教えてください。

特種(とくだね)部会は、一部の特殊な物品積載設備を有する自動車(例えばコンクリートミキサ車、冷蔵冷凍車、塵芥車、粉粒体運搬車等)を除いた特種車を製造している会員が集まった部会です。

近年の生産台数を見えますと、部会全体で2001年に約1.5万台、生産のピークは2003年の約1.6万台でした。昨年は約1.3万台であり、2006年に比べて、約2%増と回復しています。これは、生産台数の多い保険用車両が約10%と減少しましたが、同じく台数の多い緊急車両が約27%増えていることによりです。保険用車両の内訳では、福祉関係が重視されている中、車いす移動車が減少していますが、これは一部のインライン化により減少したもので、車いす移動車の販売全体としての変動はほとんどありません。

特種車は爆発的に売れるということは難しく、世の中の景気、政府の事業変化、補助金の変化などにどうしても振られてしまうことが多いのが実状であります。また最近では、材料、部品の値上がりにより2005年にあり、その後も高値安定で続いており、特に鋼材、アルミ、特にステンレスが高騰していて、採算面で厳しくなっています。

車種毎の生産台数が少ない中で、部品共用化、サービス体制の設立等が重要な課題となっています。部会員の皆がライバルでもあり、仲間でもあり、お互いに切磋琢磨しながら業界を盛り上げていかなければならない状況であります。

- 特種部会の主要課題とその取組みについて教えてください。

部会として、次の項目が主要な課題と考えています。これらへの対応を2008年度事業計画に反映し、よりよい部会活動を行っていききたいと思います。

- ・新規JABIA規格の策定
- ・環境課題への部会内取組みの促進
- ・原材料値上げへの対応

また、新規の会員の勧誘も積極的に行いたいと考えています。

- 今後の計画や抱負はいかがですか？

例年行っている内容ですが、自動車検査法人との技術検討会の定例開催を継続して行い、検査する側と検査に持ち込む側の忌憚のない意見交換を実施し、検査をよりスムーズに出来るようにしていきたいと考えます。

また、部会としての環境対応のやり方、特種としてJABIA規格の新規策定等も部会活動に組み入れて「環境に優しい特種車」造りを行っていききたいと思います。特種部会は、少量多種の車両を生産していますので、車種を越えた部品共用化等、幅広い協力体制ができれば、より活発な部会活動ができるので、2008年度はより一層押し進めたいと考えます。

Profile

◆業務歴

1966年 9月 (有)イズミ車体製作所 入社
1972年 11月 (有)イズミ車体製作所 取締役就任
1993年 12月 (有)イズミ車体製作所 代表取締役社長
(1995年 12月 株式会社に變更)

◆車工会歴

2004年 5月 理事 就任
2005年 5月 特種部会長 就任

◆趣味・嗜好

読書(愛読書は月刊「致知」、氷川清話「勝海舟自伝」)
お酒は「フランス産赤ワイン」

◆人物評

威圧感のある強面の風貌から想像もつかない優しさや信念を持っている九州男児。いろいろな会議でも他人の意見をじっくり聞いてから、ずばっと鋭いご自分の意見を発言されているが、他人への細やかな配慮も決して忘れない方である。



NET WORK

会員会社紹介 Vol.52

個性的な特種車両の製作で 広く社会に貢献

広島駅からJR呉線で約15分、矢野駅に到着する。そこから車で5分ほど、広島湾の埋め立て地にある流通工業団地と呼ばれるところに、今回訪問した東部工場があった。

取材 / (社)日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

特 徴 沿 革

広島市内に本拠地を置く(株)河野ボデー製作所は、1953年の創業から今日に至るまで、特種車両の製作に力を注いでいる。創業当初は、専用荷台、特殊ボデー、幌架装などを行っていたが、1963年に広島大州に大州工場を開設すると、(株)広島マツダの指定工場となり、二次架装などで事業展開を始める。これにより(株)広島マツダをはじめとする全国のマツダおよびマツダ系ディーラーからの特殊架装を受注することになる。

このマツダ系ディーラーとの関係は、特種車両製作の技術向上だけでなく、どんな要求にも応えられる人材育成へと繋がっていく。特にディーラーの営業マンには、

営業のマニュアル化が進む今日、臨機応変にお客様の相談に乗れる河野ボデーの社員は欠かせない相談役になっている。

1972年に大州第2工場を増設するが、1986年に第1、第2工場を合併し現在ある東部工場を開設する。マツダ扱いの特種車両の架装受注は、東部工場の開設後も拡大を続け、多様なニーズに応えるために技術・技能向上も図ってきた。そんな中で生み出されてきたのが、アコーディオントップや図書館車であり、現在の起震車、タイヤサービスカーなどである。

1993年に東京立川に関東工場を開設、1997年には東部工場にカチ

オン電着塗装工場も建設、スチールバン等の板金架装にも対応できるものとなった。

最近の10年ほどはマツダ以外のメーカーの仕事も受注し、更なる業務拡大に励んでいる。河野社長は、「工場の開設も設備の導入もいろいろきっかけがあって、ここまでやってきた」とこれまでを振り返る。そこには人と人とのつながり、お客様のニーズに応える技術があり、今日へとつながっている。



株式会社 河野ボデー製作所

DATA

- 東部工場
広島県広島市安芸区矢野新町
2丁目3-57
TEL 082-885-1411
FAX 082-885-2270
- 資本金 3000万円
- 従業員 95名
- 事業所規模
本社工場 約3,300㎡
東部工場 約5,200㎡
関東工場 約4,300㎡
- 車体工業会加入
1979年(特種部会)



代表取締役
河野 征夫

製 品

—— 御社で製作している主力製品についてお聞かせ下さい

河野社長 タイヤサービスカーや起震車など、最近は機器メーカーとタイアップした車両が多いですね。

—— これまでの製作車両の中で、印象に残っているものはありますか？

30年くらい前になりますが、側面開放出来るアコーディオントップ車両を当社のオリジナルで製作していました。小口配送に便利だとお客様からも人気で、一時はメイン車両でした。

アコーディオントップ



側面全体がカーテンで覆われている。小口配送に用いられる



稼働中のカチオン電着塗装。自動車部品のみならず、異業種の塗装注文も受ける



従業員の平均年齢は42歳ほど。各工程でも慣れた手つきで作業する若い人が多い

NET WORK

最近では、税関仕様の検査測定車などがあります。港や空港などに待機して輸入品のチェックなどに使用され、武器や麻薬の密輸発見などに活躍しています。

—— 設備の中で特徴的なものはありますか？

設備ではないのですが、当社は3工場あり、それぞれに特徴が違ってきます。この東部工場は、一品架装物がメインで、カチオン電着塗装工程も備えています。

検査測定車

航空関連会社の依頼で製作したのが最初で、どこでも行けるよう、全体がコンパクトに出来ている



タイヤサービスカー

ワイドキャビンには、タイヤ交換に必要な道具が積まれている。サイドにはジャッキ入れも付いている



人

—— 従業員の特徴は？
マニュアル化した品質管理も大切ですが、当社では各作業者が社会的責任を自覚し、それぞれが得意とする作業をひとつひとつ確実にこなしていくことを大切にしています。

そこでゆっくり時間を掛けて仕事を覚えるということを取り入れ、ローテク、ロースピードに信念と自覚を持って、仕事をこなしています。その結果、小さな職人集団でも、社会に押しつぶされない技能、技術を持っていると思います。

広島市西区にある西部工場はミニ量産を、茨城にある関東工場は、営業とサービスの拠点であり、自社向けアフターフォローの役割を担っています。

—— 御社のモットー、今後の抱負などをお聞かせください。

「社会変化は大きく変わっても、物づくりの原点というのは、昔とそう変わらない」を信念に、才能の有無を問わず、地道に辛抱強く仕事に取り組める人材を大切にしたいと思っています。

—— 若手の育成で力をいれていることはありますか？

毎年、新卒採用を行っています。5年、10年、15年と長いスパンで頑張ってくれる人を大切にしています。

技術を習得していく中で、生きることにも自信をつけ、持続力も養っていく。そのことが将来、世の中に迷惑を掛けない、人間づくり、品質づくりに繋がっていくと考えます。

VOICE

資材部会ビジネスネットワーク STAGE 44

私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

「VOICE」では、自動車車体部品に限らず、幅広く架装メーカーのニーズにお応えする会員各社の新製品・新システムあるいはユニークな製品等をご紹介します。

●天龍工業㈱ 「バスかわるシステム」で バス全体を考え、ご提案

天龍工業株式会社（代表取締役社長 福西健二氏）のシート事業は、バス・鉄道車両・船舶・航空機など各種乗用座席づくりに情熱を燃やし続けて半世紀、バス用座席では90%のシェアを持つ日本の座席メーカーとして、わが国の輸送産業に大きく貢献している。「バスかわるシステム」とは、1台のバスを数通りに使えるように、バス室内にレールを設置。シートや各種ユニットをレール固定することで、さまざまな室内レイアウトが可能となり、1台のバスをいろいろなお客様に合わせることが出来る。個性と低コストという相反する要望に応える、これからのバス運行を見据えたシステムである。

シート取り付け方法を共通化すると、いろいろな物が取り付け出来、乗客が少ない時は、シートピッチにゆとりを取ることも可能。デザインから施工までをトータルで行う。張り替えやボデー塗装だけではない、シートメーカーならではのシステム

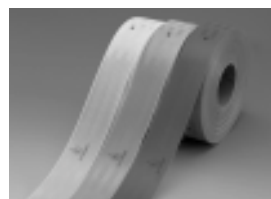


□お問い合わせ先 天龍工業㈱ 営業部
〒504-8642 岐阜県各務原市蘇原興亜町4-1
TEL：058-382-7415 FAX：058-382-7414
URL：http://www.tenryu-kogyo.co.jp

●住友スリーエム㈱ 貼るだけで車両の存在をアピール スリーエム™ダイヤモンドグレード™ コンスピキュエティ反射シート

住友スリーエム株式会社（代表取締役社長 ジェシー・ジー・シン氏）では、夜間や薄暮に多発する大型車両の事故に対応した スリーエム ダイヤモンドグレードコンスピキュエティ反射シートを発売、国内だけでなく、欧州、アメリカなどでも好評を得ている。

- 【特長】
- ・「道路運送車両の保安基準」に適合した製品（Eマーク付）
 - ・優れた広角性
 - ・簡単な施工
 - ・長い耐久年数



スリーエム ダイヤモンドグレードコンスピキュエティ反射シートは、入射光を光源方向に真っ直ぐ反射する再帰反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シート



車両マーキングを施していないトラックと施しているトラック

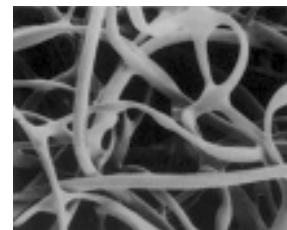
□お問い合わせ先 住友スリーエム㈱交通安全システム事業部
〒158-8583 東京都世田谷区玉川台2-33-1
TEL：03-3709-8357（本社）
URL：http://www.mmm.co.jp

●住江織物㈱ シートクッション材の未来形 「ポリエステル硬綿」

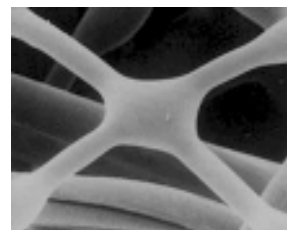
住江織物株式会社（代表取締役社長 吉川一三氏）では、バスの内装材をトータルで提案。送迎用から路線・観光バスまであらゆるお客様にご満足いただいている。

「ポリエステル硬綿」は、機能性と快適性をベースに、これからの素材基準として重要な位置を占める安全性や、さらにはリサイクル性も考慮して、住江と帝人が共同展開する、高弾性ポリエステル車両シートクッション材。

万一、燃えても有毒な燃焼ガスの発生が少なく、一部でケミカル・リサイクルも実現されており、純度99.99%のポリエステルに再生されている。



2種の繊維が立体的に絡み合ったタンゲル・スプリング構造を持っている。繊維がしっかりと、しかも柔軟に結びついているので、強靱で弾性回復力に富み、優れた耐久性をも併せ持つ



繊維の交錯点がエラストリック・ポリマーでアメーバー状に固着されている

□お問い合わせ先 住江織物㈱ 車両内装資材事業部
〒580-0006 松原市大堀1-5-8
TEL：072-330-2674 ・FAX：072-330-2746
URL：http://suminoe.jp

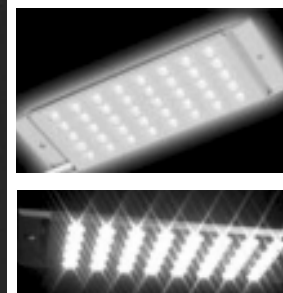
●ゴールドキング㈱ トラックの冷凍車、冷蔵車に最適の 「LED庫内灯」を発売中

ゴールドキング株式会社（代表取締役社長 小澤賢記氏）では現在、エレクトロニクス&アメニティをテーマに幅広く社会のニーズに対応するため、新しい技術の研究と開発に積極・果敢にチャレンジしている。LED庫内灯は、お客様から好評を得ている。

- 【特長】
- ・低温に強く、素早く点灯。
 - ・ドア開閉時などの点灯、消灯の繰り返しによる劣化に強く超寿命。
 - ・明るさは、8W蛍光灯同等以上。
 - ・2点ビスでの簡単取付（既存車取付用パーツも用意）
 - ・DC24V・DC12V対応。



TKD-2T734

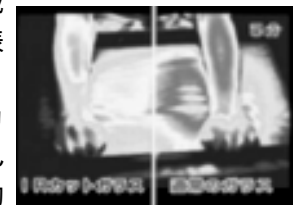


□お問い合わせ先 ゴールドキング㈱ 本社
〒454-0912 名古屋市中川区野田1-380
TEL：052-352-2421 ・FAX：052-361-1402
URL：http://www.goldking.co.jp

●日本板硝子㈱ IRガラスで、熱暑感を低減

日本板硝子株式会社（代表取締役 藤本勝司氏）では、ユーザーの感性である皮膚を感じる熱さ（熱暑感）を指標とし、皮膚温度測定との関係を研究、より快適な車室内空間に役立つ「IRカットガラス」の開発に取り組んでいる。

IRカットガラスは、主に赤外域の光線の透過量を減らすことで、熱暑感を低減するガラスで、ガラス表面に特殊な材料をコーティング、ガラス組成にIRカット効果のある材料を入れる、中間膜にIRカット効



果のある膜を採用した合わせガラス、などがある。その他多種多様な自動車・車両用ガラスを開発、価値観の変化に対応する商品を取り揃えている。

●自動車・車両用ガラス一覧

- | | |
|-----------|--------|
| ・合わせガラス | ・解凍・解氷 |
| ・強化ガラス | ・調光ガラス |
| ・IRカットガラス | ・防曇ガラス |
| ・ガラスアンテナ | ・防犯ガラス |
| ・撥水性ガラス | |

□お問い合わせ先 日本板硝子㈱ 東京本社
〒108-6321 東京都港区三田3-5-27
住友不動産三田ツインビル西館
TEL：03-5443-9517 FAX：03-5443-9551
URL：http://www.nsg.co.jp

そこが知りたい

第3回

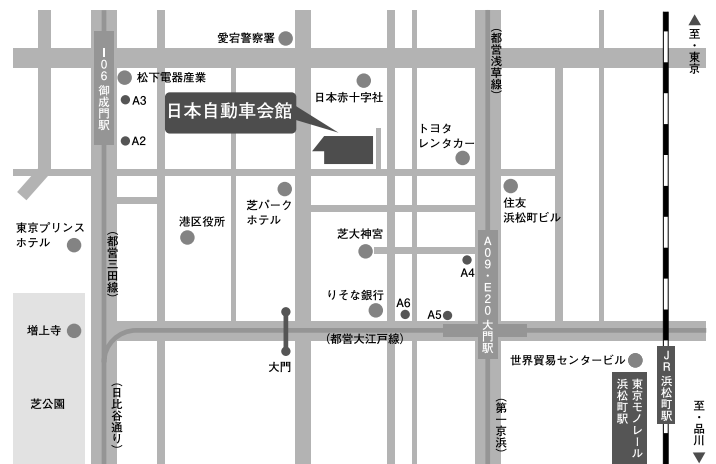
車体工業会事務局のある 日本自動車会館とは？

日本自動車会館には、自動車に関連する団体が多く入っている。当会事務局も15階にあるが、地図には自動車会館の名前がないこともある。

そこで今回は、「自動車会館には、どのような団体が入っており、何をしているところか？」について紹介する。

■地図には「芝NBFタワー」と記載されているが、自動車会館とどう違うの？

実は芝NBFタワーと自動車会館は同じ建物である。
“芝NBFタワー”という賃貸ビルの1階、および10～15階に自動車関係団体が集結し、「自動車会館」と呼称している。2階～9階には、一般民間会社が入っており、こちらを「芝NBF（ニホン・ビル・ファンド）タワー」としている。



15階にある車工会事務局の窓からの景色。東京タワーが一望できる。夜になるとライトアップされるので、さらに見応えがある

■自動車会館設立の経緯は？

自動車産業は、製造、販売・整備、運輸、関連サービスなど、裾野の広い関連産業を抱える総合産業である。自動車をめぐる環境問題や安全問題をはじめとする、社会的な要請事項に的確に対応していくためには、関連各分野の連携を深めることが重要であり、2004年3月に、連携強化や自動車に関係する総合情報の受発信基地として自動車会館が設立された。

当会もこの開設に合わせ、大手町からこの自動車会館に移転し、広報活動や総務等の委員会活動を通じて会館運営に参画している。



■当会以外にどんな団体が入っているのか？

17・16階:【社団法人 日本自動車工業会/JAMA】
二輪車を含む自動車製造会社14社の集まりであり、環境や安全に配慮した自動車産業発展のための活動や、生産、流通、貿易等の調査活動等を実施している。

16階:【有限責任中間法人 自動車再資源化協力機構/JARP】
自動車リサイクル法により引取り・再資源化を義務付けられたフロン類・エアバッグ類の処理を適正・確実かつ効率的に行うべく、国内自動車メーカー12社並びに日本自動車輸入組合より設置された法人。

15階:【社団法人 日本自動車販売協会連合会/JADA】
自動車ディーラーの全国組織であり、会員ディーラーの経営安定化や社会的地位向上を図るほか、環境保全、交通安全、自動車交通インフラの整備なども積極的に進めている。

15階:【社団法人 日本自動車会議所】
自動車や部品、車体の生産、販売・整備、運輸・交通、関係サービスなど幅広い分野の団体・企業が参画する自動車関連分野の総合団体で、クルマ社会と産業の発展、国民経済や国民生活への貢献を目的に、政策提言等の活動を行っている。

15階:【社団法人 全国レンタカー協会】
レンタカー事業の適正な運営と利用者サービスの改善を通じて、事業の健全な発展を図り、公共の福祉の増進に寄与、事業の社会的経済的地位の向上を目的にしている。

14・13階:【社団法人 日本自動車連盟/JAF】
昭和38年、設立。会員数は1,715万名(平成16年3月末現在)で、わが国最大の自動車ユーザー団体。ロードサービス業務はもちろん、交通安全や地球環境問題などの公益事業にも積極的に取り組んでいる。

ちなみに…

■自動車会館にはこんな便利な場所もある

くるまプラザ&貸会議室（1階）

会館を訪れた一般の方々に、各種情報を提供するインフォメーションセンター。自動車関係各分野の機関誌、広報資料、パンフレット等を展示、運転適正診断器なども用意されている。また、貸会議室(有料)も用意されている。



くるまプラザ
利用時間
午前9:00～午後6:00
入館無料
休館日
土・日、祝日、年末年始

貸会議室
利用時間
午前9:00～午後6:00(原則)
お問合せ・申込み先
TEL:03-5476-5550
東和不動産(株)東京事務所



自動車会館に入っている団体は当会を含め、11団体。各団体がどんな仕事をしているか、一挙紹介。

12階:【財団法人 日本自動車研究所/JARI】
自動車に関する総合的な研究を行う組織。クルマ社会の健全な進展に貢献することを使命に、幅広い関連産業との連携を深め、先導的な研究に取り組んでいるとともに、一般会社からの研究委託も受けている。

11階:【財団法人 自動車リサイクル促進センター/JARC】
自動車のリサイクルおよび適正処理の推進を図る公益法人。自動車リサイクル法における使用済自動車の再資源化に関し、資金管理業務、再資源化等業務、情報管理業務を行う指定法人になっている。

11階:【社団法人 全国軽自動車協会連合会】
軽自動車の普及対策、軽自動車の検査申請・届出業務の円滑な実施への協力、軽自動車の販売・保有統計の提供などを実施することによって、公共の福祉の増進を図ることを目的とした団体。

10階:【株式会社 ジエ・エー・エフ出版社】
自動車関連の雑誌・書籍、道路地図、温泉ガイドをはじめとする旅行図書などの出版販売、地図・ガイドのデジタルデータの作成販売を行っている。

10階:【株式会社 ジエ・エー・エフ・サービス】
JAF会員へのサービス向上の一環として、自動車関連商品を中心とした各種生活用品の通信販売業、また、通信販売による生命保険募集代理業・損害保険代理業を行っている。

1階:【財団法人 日本自動車教育振興財団/JAEF】
「より健全なクルマ社会の発展」を目指し、新しい社会を担う高校生などに対して自動車に関する教育が効果的に実施されるよう、教材の提供、実習用機材の提供、教諭を対象とした研修会の開催などの支援活動を行っている。

自動車図書館（1階）

自動車関係の企業・団体の機関誌やPR誌をはじめ、各種統計資料や歴史資料など、専門図書館ならではの資料1万冊以上の閲覧が可能。



- 入館利用のご案内
開館日:月曜日～金曜日 開館時間:午前9:30～午後5:00
- 蔵書数
和洋図書 約9,000冊、製本雑誌 約3,000冊
雑誌 約200タイトル、新聞 約20タイトル
※なお、図書および雑誌の貸し出しは不可。
- ビデオライブラリー
図書以外に交通安全やモーターショーの記録映像などのビデオを約400本所蔵、館内での視聴および貸し出し
URL http://www.jama.or.jp/lib/car_library/



Coffee Break

Member's essay

山歩きのきっかけ

(株)ミクニ 草野 喜行

私が山登りを始めるきっかけは3年前の秋、学生時代の友人と10数年振りに飲みに行き、酔った拍子の安易な相槌からでした。

山登りを趣味としている友人は、登った山のことをさも楽しげに話し、友人との再会のおいしいお酒の勢いで、登る日にちまで決めてしまいました。しかしながら、その日が来るまでどうやって断ろうかと算段しましたが、断るネタがなく、いやいや参加しました。

登ったのは、奥多摩の陣馬山という標高855mの初心者向けの山、集合場所の近くの駅に行くときに友人と友人の山仲間も到着していました。その格好は皆、見るからに山歩きの格好、一方、私は友人の汗をかいてもよい格好というアドバイスのとおり、Tシャツ、スニーカーといういでたちです。不安を感じながら登り始めました。初めて山登りをする私を気遣ってゆっくり登ってもらったせいか、遅れることもなく、頂上に到着することが出来、頂上では



鍋料理とビールを飲み、アウトドアでの食事のうまさを堪能しました。下山後には温泉に立ち寄り、疲れも癒すことも出来、来て良かったと感じました。

それから、登山靴や登山用のバッグ等の用品を1点ずつ買い足して行き、月に1度は山登りに行くようになり、今では北アルプスにテント泊するまでになりました。

よくいわれていることですが、山歩きの良さは森の中での鳥のさえずりや溪流のせせらぎを聞きながら歩き、山頂での景色を見、自然に触れることだと実感しました。それにより仕事などの悩みや心配事も忘れられ、リフレッシュしています。

旅行の楽しみ

岐阜車体工業(株) 市川 克

私の楽しみは、旅行です。近場の日帰り温泉へのドライブから飛行機等で出掛ける海外旅行等さまざまです。

学生の頃は、よく友達と突然目的もなくドライブに出掛けたものでした。夜中に当ても無く国道1号をひたすら東に走り(当時は岐阜県各務原市に住んでいました)、静岡の三保の松原を過ぎ、6時間位掛けて朝方富士山の五合目にやっと着きました。

長距離のドライブで心身共疲れきっていましたが、五合目からみた夜明けの太陽は大変壮大で、感動しました。帰りもお金が無いので、車のガソリン代のため食事もうるくに取らず、国道をひた走りしました。

今なら新幹線か高速で行くのが普通ですが、じっくり時間を掛けて富士山に行ったので、30年以上前



ドイツ・シェレの木骨組みの家並みの前で

の出来事ですが、未だに鮮明に覚えています。

最近では、親しい友人夫婦と今流行りの北海道の旭山動物園に行き、家族同士での楽しいひと時を過ごしました。

旭山動物園は噂に違わず動物を間近で見れるよう工夫がしてありました。皆さんも機会があれば、ぜひ訪れて欲しいと思います。蛇足ですが、お土産は『じゃがポックル』という名のポテトチップが大変おいしいです(ちなみに北海道限定商品です)。

一昨年の9月には、車体工業会主催の『2006年欧州視察』に参加し、11日間でドイツ、イタリア、フランスの3カ国の企業を視察しました。あこがれのヨーロッパでは、見るもの聞くもの、全て新鮮で感動しまくりでした。この視察では、いろいろな業種の方との交流も出来、私にとって貴重な体験となりました。

昨年には、一年ぶりで交流会が開催され視察メンバーの方々と欧州視察、近況状況等の話に時間を忘れて楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

ゴルフ、ふたたび！？

日本トレクス(株) 山本 寛治

数年前まで「健康管理」ということに、あまり頓着もなく過ごしていたのですが、年齢50歳半ばを過ぎ、せめて現在の健康を維持するために何かひとつでも

実行しようかと思い始めました。健康維持、更に促進といえば「運動をすること」と連鎖しますが、元来何をしても長続きするほうではなく、果たして実行できるか、自信がありませんでした。そんなことを考えているうちにふと、10年程前に従弟に誘われ、ある河川敷ゴルフ場で練習をしたことを思い出しました。

その時は、数度通っただけで長続きしませんでした。が、一念発起し再び行ってみることにしました。河川敷ですからネットもなく開放感があり、なかなか良い気分でしたが、久々のことで打球はうまく飛んでくれず、練習は惨々な結果に終わりました。

が、妙にさすがさが残り、また来ようという気が起こったのです。2回、3回と通うようになり、今では練習場の常連となり3年間で過ぎてしまいました。場内は、奥行約300ヤード、その先は芦の茂み、またその先は川面となっており、夏は直射日光を浴び、冬は寒風にさらされるという厳しい環境ですが、これがまた試練を乗り越える「精神鍛錬」の場などと自己満足に浸っています。女房には、逆に健康を損なうのではと心配を掛けている始末です。



いまだ腕は上がらず、スコアメイクに結びつくような状態ではないのですが、早く「ゴルフが趣味です」と、人前で自慢できるようになりたいと頑張っています。またそれにも増しての楽しみが、練習のあと家に帰って飲むビール。「うまいっ！！」の一言です。



2008.春

サックス吹いてリフレッシュ！

(株)瑞穂 技術・サービス部

いがわ はるか
井川 春香さん

Q.どんなお仕事ですか？
コンテナ設計。

Q.仕事で楽しいことは？
まだまだ未熟な私ですが、
自分が作図した図面でコン
テナが出来上がり、よく
出来ていると褒めてもら
えた時は、うれしかったです。

Q.好きな異性のタイプは？
(芸能人でいうと？)
芸能人でいうと、玉木宏。

Q.あなたの至福の時は？
本番でサックスを演奏し
ている時。

Q.元気の秘訣は？
サックスを吹くこと。
小学校や、ショッピング
センターなど、いろんな
人の前で演奏してます。

Q.御社のPRをしてください
「お客様の声を形に」をモ
ットーに、スピード・コ
スト・アイディアでお応
えする製品作りを心がけ
ています。



真ん中がご本人

大好きなトラックの営業をしています

(株)東洋ボデー 営業部

あきやま ゆういち
秋山 雄一さん



Q.どんなお仕事ですか？
平ボデーの営業。

Q.仕事で楽しいことは？
お客様とたわいのない世間話を
している時が一番楽しい。

Q.最近凝っていることは？
スノーボードをしている時と野
球をしている時。

Q.至福の時は？
ゲレンデの山頂で一服している
時。

Q.好きな食べ物は？
焼肉の中でもユッケが好物
です。焼いていませんが....。

Q.あなたをPRをしてください。
お客様に満足していただけるよ
う、大好きなトラックについて
日々勉強しています。

Q.御社のPRをしてください。
先日「中小企業IT経営力大賞」
を受賞しました。今後もより一
層、IT化に力を入れ、短納期、
低コストで顧客満足第一に頑張
ります。

HOBBY LIFE

自転車に夢中

三菱ふそうバス製造(株) 本田 勝彦



愛車とともに

私の自転車生活は突然始まりました。車社会で不自由なく生活していた私にとって、自転車に乗っていたのは遠い昔。その存在は私の頭の片隅にうっすら残り、まるで化石のように古ぼけた記憶でした。

ところがある日、映画のワンシーンによって、自転車が私の頭の中に劇的に蘇ってきたのです。ロードバイクに乗った女性が、爽快に走っていくシーン。それは、約120分間の映画の中でわずか2～3分の場面でしたが、その瞬間、私は大きく心が揺さぶられてしまいました。人間も自転車も背景も、映るもの全てが美しく、そして格好良いのです。

その映画を何度も繰り返し見るようになり、徐々に「乗ってみたい!」という感情が湧き出してきた、ついにはサイクリングショップに足を運ぶようになりました。

きっかけは些細なことでしたが、まるで高速エレベータに乗せられたかのように、急激に自転車に惹かれていく私がいきました。

その後、試行錯誤の末、何とか自転車(ロードバイク)を入手し、今では暇さえあればサドルにまたがっています。

必然的に通勤も自動車から自転車へと生活パターンが変わりました。それによって仕事へ向かう時の気が重いダーク色の通勤時間が、まるで魔法にかかったようにパステルカラーの艶色な時間になっていったのです。

また自転車で会社に着く頃には全身に血が駆け巡って、アドレナリンが分泌してきます。カラダの中で炎がチロチロと燃えているような感覚になって、いきな

り「戦闘モード」がONになります。

反面、帰り道は仕事の疲れでヘロヘロですが、でもペダルを踏み込んだ瞬間に「前進」という素朴な行動が爽快感となり、ストレスを解消して蘇生できるのです。

それから会社ではサイクリングクラブに所属して、年に4～5回のクラブランにも参加しています。やはり一人で走るよりは集団で走った方が断然楽しいのです。どちらかというと、チカラの尽きるまで走るというものではなく、風景を楽しみながら移動するという感じです。

でもそれこそが自転車乗りの醍醐味かも知れません。春には草花が芽生え、夏には繁り、秋には色づくという季節の変化を、自転車という最高の相棒と一緒に走りながら感じる事が出来るのですから。

とにかく自転車は楽しいです。こんなに夢中になるとは私自身思いもしませんでした。できることであれば15年前に戻って、そこから自転車生活をやり直したいくらいなのです(気付くのが遅かったので...)

これから先も、きっと多くの時間を懸けて自転車と関わっていきと思いますが、その度にワクワクとドキドキを与えてくれる相棒に感謝です。

トラック車体 2007年10月～12月 生産台数

用 途		10 月						11 月						12 月					
		大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)
運 転 台	普 通	64	151	6,226	0	6,441	153.9	46	132	5,616	0	5,794	126.9	49	111	4,985	0	5,145	131.3
	特 殊	100	15	6,123	0	6,238	105.9	79	14	5,673	0	5,766	92.5	57	12	5,786	0	5,855	123.5
合 計		164	166	12,349	0	12,679	125.8	125	146	11,289	0	11,560	107.0	106	123	10,771	0	11,000	127.0
対前年同月比(%)		101.9	202.4	125.6	0.0	125.8		78.1	197.3	106.8	0.0	107.0		72.6	198.4	127.5	0.0	127.0	

普 通	標準型(シャシメーカー標準車)	8	260	3,452	0	3,720	133.7	5	224	3,038	0	3,267	121.9	3	210	2,815	0	3,028	101.4
	アルミブロック	49	71	20	0	140	105.3	47	60	10	0	117	75.5	50	88	5	0	143	106.7
	普通型あり スタンダード (木製)	31	284	35	0	350	137.8	19	156	5	0	180	80.7	18	176	14	0	208	89.3
	(450mm以下)																		
	その他 (スチール、コルゲート等)	5	1	0	0	6	6.7	1	0	0	0	1	1.6	1	0	0	0	1	1.7
	アルミブロック	114	106	38	0	258	85.7	131	108	32	0	271	85.5	130	145	33	0	308	88.3
	スタンダード (木製)	7	0	1	0	8	19.0	17	98	0	0	115	442.3	14	69	3	0	86	1,228.6
	その他 (スチール、コルゲート等)	5	0	0	0	5	71.4	7	2	3	0	12	240.0	4	1	0	0	5	50.0
	チップ運搬車	4	0	0	0	4	80.0	4	0	0	0	4	133.3	2	0	0	0	2	33.3
	オートバイ積	2	0	7	0	9	225.0	3	3	5	0	11	366.7	0	0	8	0	8	266.7
荷 台 ／ 平 ボ デ ー	1台積	2	24	126	0	152	62.0	1	32	154	0	187	84.2	0	31	155	0	186	81.6
	2台積	1	12	12	0	25	166.7	1	15	9	0	25	166.7	0	12	6	0	18	150.0
	3台積	2	3	0	0	5	45.5	5	2	0	0	7	87.5	2	4	1	0	7	63.6
	4台積以上	10	0	0	0	10	43.5	9	0	0	0	9	36.0	13	0	0	0	13	61.9
	セミトラクタ	7	0	0	0	7	140.0	2	0	0	0	2	40.0	5	0	0	0	5	71.4
	フルトラクタ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	2	0	0	0	2	0.0
	車輦傾斜式	30	3	0	0	33	62.3	35	1	0	0	36	73.5	37	9	0	0	46	135.3
	荷台スライド式	37	8	2	0	47	104.4	37	8	1	0	46	102.2	27	2	0	0	29	55.8
	その他	7	0	0	0	7	70.0	5	1	0	0	6	85.7	6	1	0	0	7	58.3
	家畜運搬車	1	1	0	0	2	200.0	2	1	0	0	3	150.0	0	0	0	0	0	0.0
台 ／ 平 ボ デ ー	側面開放車 (機製)	24	59	2	0	85	72.6	42	60	1	0	103	73.0	30	65	2	0	97	97.0
	カーテン式	5	4	4	0	13	130.0	1	3	4	0	8	57.1	0	2	5	0	7	116.7
	コンテナ兼用車	2	0	2	0	4	100.0	3	0	0	0	3	75.0	1	0	0	0	1	100.0
	脱着ボデー	0	1	0	0	1	—	7	0	0	0	7	77.8	4	0	0	0	4	100.0
	その他	11	4	88	4	107	100.9	4	1	67	2	74	61.7	8	8	72	0	88	118.9
	合 計	364	841	3,789	4	4,998	117.2	388	775	3,329	2	4,494	108.4	357	823	3,119	0	4,299	98.8
	対前年同月比(%)	81.3	88.8	132.2	200.0	117.2		83.8	79.1	123.4	50.0	108.4		80.2	89.9	104.3	0.0	98.8	

乗用車及び商用車車体 2007年 10月～12月 生産台数

車 種		10月	対前年同月比(%)	11月	対前年同月比(%)	12月	対前年同月比(%)
乗用車	セダンタイプ	76,070	115.9	73,843	101.6	63,539	98.0
	ステーションワゴン	60,810	123.3	58,495	101.6	46,653	88.8
	ミニバンタイプ	5,059	79.4	5,048	66.5	4,164	55.7
	オフロードタイプ	40,700	136.7	40,773	133.8	38,798	150.2
	キャブオーバータイプ	27,970	100.2	28,352	101.4	25,679	105.8
商用車	ツープックスバン	4,594	222.8	3,719	168.5	3,169	93.9
	キャブオーバーバン	14,731	107.8	15,329	111.5	12,058	107.4
	キャブオーバートラック	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	3,117	205.1	2,807	147.2	2,318	146.5
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	5,635	106.6	5,289	92.7	5,399	131.2
	合 計	238,686	118.4	233,655	106.3	201,777	103.3

特装車車体 2007年10月～12月 生産台数

車 種		10 月							11 月							12 月							(単位:台)	
		基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)		
ダンプ車	リヤダンプ	0	618	736	1,303	287	2,944	76.0	0	589	649	1,252	214	2,704	73.6	0	627	660	1,120	146	2,553	81.5		
	三転ダンプ	0	0	31	52	0	83	87.4	0	0	10	52	0	62	43.7	0	0	22	60	0	82	118.8		
	深堀ダンプ	0	129	6	4	2	141	256.4	0	91	11	6	0	108	200.0	0	35	8	5	1	49	79.0		
	その他	0	10	53	4	0	67	41.6	0	6	33	11	0	50	29.4	0	9	42	23	0	74	70.5		
タンクローリ	石油類	0	46	57	23	0	126	78.8	0	75	40	20	0	135	80.4	0	41	46	16	0	103	89.6		
	毒劇物	0	1	0	0	0	1	20.0	0	6	0	0	0	6	85.7	0	10	0	0	0	10	250.0		
	散水・給水	0	24	39	5	0	68	73.1	0	92	43	4	0	139	156.2	0	70	27	1	0	98	132.4		
	食品	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	その他	0	4	0	1	0	5	100.0	0	6	0	0	0	6	100.0	0	5	0	0	0	5	55.6		
高圧ガス	LPG	0	10	3	0	0	13	61.9	0	9	4	0	0	13	54.2	0	10	7	0	0	17	113.3		
タンクローリ	その他	0	1	0	0	0	1	50.0	0	2	0	0	0	2	200.0	0	1	0	0	0	1	33.3		
トラックミキサ車	アジテータ	0	166	42	2	0	210	100.5	0	217	39	0	0	256	128.0	0	158	30	0	0	188	81.4		
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
粉粒体運搬車	飼料	0	18	4	0	0	22	95.7	0	18	3	0	0	21	100.0	0	15	1	0	0	16	100.0		
	バラセメント	0	40	0	0	0	40	148.1	0	38	0	0	0	38	122.6	0	27	0	0	0	27	64.3		
	その他	0	4	0	0	0	4	100.0	0	3	0	0	0	3	300.0	0	5	0	0	0	5	166.7		
消防車	消防ポンプ車	0	0	36	0	0	36	120.0	0	0	62	0	0	62	93.9	0	0	38	0	0	38	62.3		
	梯子消防車	0	1	0	0	0	1	100.0	0	3	0	0	0	3	50.0	0	2	2	0	0	4	200.0		
	化学消防車	4	1	2	0	0	7	700.0	1	0	1	0	0	2	50.0	1	0	6	0	0	7	87.5		
	消防タンク車	0	0	8	0	0	8	66.7	0	0	7	0	0	7	140.0	0	0	12	0	0	12	171.4		
	消防指揮・指導車	0	0	0	3	0	3	—	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	9	0	9	900.0		
	その他	0	2	1	4	0	7	116.7	0	6	0	2	0	8	100.0	0	4	1	0	0	5	50.0		
コンクリート	ブームつき	0	9	11	0	0	20	105.3	0	9	10	0	0	19	100.0	0	11	4	0	0	15	88.2		
ポンプ車	ブームなし	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
環境衛生車	じん芥車機械式	0	27	143	221	0	391	96.5	0	25	167	214	0	406	103.0	0	31	168	217	0	416	100.2		
	じん芥ダンプ車(深堀)	0	0	0	0	3	3	75.0	0	0	1	3	2	6	150.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	衛生車	0	6	59	27	0	92	89.3	0	3	48	30	0	81	87.1	0	8	52	22	0	82	120.6		
	清掃車	0	14	12	1	0	27	84.4	0	19	18	3	0	40	87.0	0	35	17	2	0	54	110.2		
	路面清掃車	0	7	1	0	0	8	100.0	0	11	0	0	0	11	157.1	0	8	4	0	0	12	150.0		
	その他	0	15	2	0	0	17	154.5	0	2	3	0	0	5	166.7	0	2	3	4	0	9	150.0		
その他	トラッククレーン	14	1	2	0	0	17	121.4	10	1	0	0	0	11	137.5	10	1	0	0	0	11	91.7		
	高所作業車	0	0	25	350	0	375	84.8	0	0	17	342	0	359	87.3	0	0	12	267	0	279	67.9		
	空港用作業車	0	10	4	0	0	14	100.0	0	9	0	8	0	17	89.5	0	10	0	6	0	16	84.2		
	道路作業車	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	脱着 コンテナ車	ダンプ式	0	32	52	18	5	107	82.3	0	39	71	22	0	132	88.0	0	45	68	20	1	134	81.2	
		(**)	0	88	639	213	0	940	82.0	0	100	779	195	0	1,074	98.4	0	82	780	79	1	942	79.3	
		機械式	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
		テールゲートリフト	0	11	96	389	15	511	62.3	0	10	114	375	24	523	71.5	0	9	118	351	21	499	90.2	
	(*)	0	35	347	1,173	133	1,688	117.5	0	36	333	1,097	246	1,712	109.5	0	14	257	961	198	1,430	98.8		
	除雪車	0	66	0	0	0	66	94.3	0	73	0	0	0	73	109.0	0	25	5	0	0	30	157.9		
	クレーン付トラック		0	75	279	203	0	557	81.2	0	72	270	223	0	565	91.1	0	77	236	199	0	512	81.1	
		(*)	0	43	262	229	0	534	83.8	0	63	256	218	0	537	90.4	0	71	253	205	0	529	73.1	
	穴掘建柱車	0	0	11	13	0	24	141.2	0	0	14	18	0	32	228.6	0	0	15	10	0	25	192.3		
	レッカー車	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	0	1	100.0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	その他	0	11	1	18	0	30	36.1	0	16	6	7	0	29	30.5	0	23	3	59	0	85	85.0		
合 計		18	1,359	1,716	2,641	312	6,046	79.1	11	1,451	1,641	2,592	240	5,935	80.6	11	1,304	1,607	2,391	169	5,482	84.9		
対前年同月比(%)		105.9	96.2	77.6	71.3	104.7	79.1		84.6	102.3	72.1	77.2	81.9	80.6		61.1	93.1	89.0	79.7	72.5	84.9			

DATA BOX

特種車体 2007年10月～12月 生産台数

[illegible]

DATA BOX

バン型車体 2007年10月～12月 生産台数

材 質	スチール製					アルミ製					FRP製					合 計					対同 月前 比年 (%)					
	車の大きさ																									
	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	合計						
用途	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	合計						
ドライバン	0	0	1	0	1	93	234	1,270	13	1,610	0	0	0	0	0	93	234	1,271	13	1,611	86.0					
冷凍車	機械式	0	0	57	4	61	118	246	350	35	749	8	189	155	29	381	126	435	562	68	1,191	84.2				
	蓄冷式	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	6	0	7	1	1	6	0	8	114.3				
小計	0	0	57	4	61	119	246	350	35	750	8	190	161	29	388	127	436	568	68	1,199	84.4					
保冷車	0	0	5	2	7	19	51	232	11	313	5	7	32	4	48	24	58	269	17	368	82.1					
オープンバン	0	0	0	0	0	2	11	38	3	54	0	0	0	0	0	2	11	38	3	54	131.7					
ウイング	ドライ	1	0	0	0	1	780	518	94	0	1,392	0	0	0	0	0	781	518	94	0	1,393	89.1				
	冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	46	28	0	0	74	0	0	0	0	0	46	28	0	0	74	69.8				
小計	1	0	0	0	1	826	546	94	0	1,466	0	0	0	0	0	827	546	94	0	1,467	87.8					
ウォークスレーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0					
ボトル運搬車	0	0	4	0	4	0	163	61	0	224	0	0	0	0	0	0	163	65	0	228	—					
その他	0	0	0	0	0	1	0	9	0	10	0	0	0	0	0	1	0	9	0	10	35.7					
合 計	1	0	67	6	74	1,060	1,251	2,054	62	4,427	13	197	193	33	436	1,074	1,448	2,314	101	4,937	90.1					
対前年同月比(%)	0.0	0.0	72.8	85.7	74.7	91.9	92.9	92.4	80.5	92.2	52.0	82.8	73.4	57.9	74.8	91.1	91.4	89.8	71.6	90.1						

11月	ドライバン	0	1	0	0	1	135	260	1,347	20	1,762	0	0	0	0	0	135	261	1,347	20	1,763	89.0	
	冷凍車	機械式	0	0	62	6	68	82	292	267	39	680	23	245	239	18	525	105	537	568	63	1,273	93.1
		蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	6	0	6	120.0
	小計	0	0	62	6	68	82	292	267	39	680	23	245	245	18	531	105	537	574	63	1,279	93.2	
	保冷車	0	0	7	2	9	13	77	284	11	385	12	1	26	1	40	25	78	317	14	434	105.3	
	オープンバン	0	0	0	0	0	2	10	29	4	45	0	0	0	0	0	2	10	29	4	45	95.7	
	ウィング	ドライ	0	1	0	0	1	906	602	109	0	1,617	0	0	0	0	0	906	603	109	0	1,618	95.8
		冷凍(機械式)	0	0	0	0	0	73	33	3	1	110	0	0	0	0	0	73	33	3	1	110	98.2
		小計	0	1	0	0	1	979	635	112	1	1,727	0	0	0	0	0	979	636	112	1	1,728	95.9
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
月	ボトル運搬車	0	0	2	0	2	0	127	83	0	210	0	0	0	0	0	0	127	85	0	212	—	
	その他	0	0	0	0	0	2	1	18	0	21	0	0	0	0	0	2	1	18	0	21	110.5	
	合 計	0	2	71	8	81	1,213	1,402	2,140	75	4,830	35	246	271	19	571	1,248	1,650	2,482	102	5,482	97.3	
対前年同月比(%)	0.0	200.0	85.5	266.7	93.1	90.1	99.7	99.7	105.6	97.2	129.6	92.8	113.9	39.6	98.8	90.9	98.7	100.6	83.6	97.3			

月	ドライバン	0	1	2	0	3	89	237	964	7	1,297	0	0	0	0	0	89	238	966	7	1,300	74.7	
	冷凍車	機械式	0	0	39	4	43	58	215	178	32	483	17	172	143	25	357	75	387	360	61	883	88.4
		蓄冷式	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	7	0	8	1	1	7	0	9	450.0
	小計	0	0	39	4	43	59	215	178	32	484	17	173	150	25	365	76	388	367	61	892	89.1	
	保冷車	0	0	5	0	5	26	62	216	9	313	6	4	24	0	34	32	66	245	9	352	87.6	
	オープンバン	0	1	0	0	1	3	8	29	5	45	0	0	0	0	0	3	9	29	5	46	85.2	
	ウィング	ドライ	1	4	0	0	5	836	624	78	1,539	0	0	0	0	0	837	628	78	1	1,544	86.7	
		冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	74	33	0	0	107	0	0	0	0	0	74	33	0	0	107	109.2
	小計	1	4	0	0	5	910	657	78	1	1,646	0	0	0	0	0	911	661	78	1	1,651	87.9	
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車	0	0	2	0	2	0	67	51	0	118	0	0	0	0	0	0	0	67	53	0	120	—
	その他	0	0	0	0	0	1	0	6	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	7	77.8
合 計		1	6	48	4	59	1,088	1,246	1,522	54	3,910	23	177	174	25	399	1,112	1,429	1,744	83	4,368	85.9	
対前年同月比(%)		0.0	—	81.4	66.7	90.8	88.5	95.5	76.4	158.8	85.7	82.1	89.8	86.1	78.1	86.9	88.5	95.1	77.4	115.3	85.9		

「ボトル運搬車」をトラック車体集計表からバン型車集計表に移動（現在ボトルカーの車型はバン型車であるため）

バス車体 2007年 10月～12月 生産台数

用 途		10 月							11 月							12 月						
		大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)
標 準	乗 合	161	39	0	25	0	225	81.8	172	50	0	22	0	244	86.5	221	48	0	24	0	293	85.7
	貸 切	1	1	0	3	0	5	14.3	1	4	0	4	0	9	32.1	0	2	0	5	0	7	38.9
	自家用	21	60	0	325	4,888	5,294	895.8	31	56	0	284	4,831	5,202	1,020.0	18	65	0	325	3,880	4,288	678.5
	幼 児			0	6	2	8	0.0			0	12	4	16	0.0			0	20	7	27	0.0
ハイデッカ	乗 合	20	0	0	0		20	90.9	18	0	0	0		18	100.0	18	0	0	0		18	52.9
	貸 切	65	0	0	0		65	108.3	49	0	0	0		49	116.7	59	0	0	0		59	120.4
	自家用	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	1	0	0	0		1	100.0
スーパー ハイデッカ	乗 合	0	0	0	0		0	0.0	2	0	0	0		2	100.0	3	0	0	0		3	150.0
	貸 切	16	0	0	0		16	145.5	13	0	0	0		13	92.9	24	0	0	0		24	218.2
	自家用	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
ダブルデッカ	乗 合	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
	貸 切	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
	自家用	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
国 内 向 計		284	100	0	353	4,888	5,625	562.5	286	110	0	310	4,831	5,537	618.0	344	115	0	354	3,880	4,693	430.9
輸 出 向		0	0	0	2,184	7,471	9,655	156.1	0	0	0	2,127	5,729	7,856	124.6	0	0	0	1,902	5,500	7,402	132.4
合 計		284	100	0	2,537	12,359	15,280	212.6	286	110	0	2,437	10,560	13,393	186.0	344	115	0	2,256	9,380	12,095	181.1
対前年同月比(%)		81.1	100.0	0.0	122.3	265.8	212.6		96.3	92.4	0.0	119.1	223.5	186.0		93.0	77.2	0.0	116.2	222.7	181.1	

トレーラ 2007年 10月～12月 生産台数

(単位:台)																																
形状別 種類別 区分		低床		平床(編付を含む)								バン			コンテナ用			タンク							ダンプ レーラ	ボ ー ル	車載用		フルト レーラ	その他	合 計	対前 年同 月比 (%)
				基準内				基準外				ドライ	冷 凍	側 面 開 放	20'	40'	その他	石油 類	粉粒体		高 圧 ガ ス	ミ ル ・ 食 料 品	その他									
				平床	段付	2軸	3軸	2軸	3軸	セ メ ン ト	飼 料																					
		低床	中低床	平床	段付	2軸	3軸	2軸	3軸	ドライ	冷 凍	側 面 開 放	20'	40'	その他	石油 類	セ メ ン ト	飼 料	高 圧 ガ ス	ミ ル ・ 食 料 品	その他											
10月	国内用	6	2	72	1	6	63	0	12	6	5	106	57	85	14	17	12	5	1	0	0	15	0	26	0	7	1	519	107.5			
	輸出向	0		0						0			0								0	0	0		0	0	0	0	0.0			
	構内用	0		0						0			0								0	0	0		0	0	0	0	0.0			
	合 計	8		154						117		156	35								15	0	26		7	1	519	107.5				
	対前年同月比(%)	38.1		163.8						113.6		84.3	106.1								250.0	0.0	92.9		77.8	33.3	107.5					

11 月	国内用	2	10	62	0	2	64	1	14	21	6	92	80	146	3	36	7	5	2	0	0	16	0	24	0	9	1	603	106.0
	輸出向	0		0						0			0							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	構内用	1		7						0			0							0	0	0	0	0	0	0	8	400.0	
	合 計	13		150						119		229	50							16	0	24		9	1	611	106.8		
	対前年同月比(%)	144.4		0.0						124.0		119.3	122.0							145.5	0.0	82.8		64.3	50.0	106.8			

12 月	国内用	5	13	72	3	0	62	0	11	16	0	62	106	108	37	15	4	4	3	0	0	17	0	20	0	10	0	568	90.4
	輸出向	0		0						0			0							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	構内用	1		1						0			4							0	0	0	0	0	0	0	6	300.0	
	合 計	19		149						78		255	26							17	0	20	0	10	0	574	91.1		
	対前年同月比(%)	146.2		70.3						65.0		138.6	57.8							170.0	0.0	117.6		52.6	0.0	91.1			



編集後記

3月となっても寒い冬の天候が続いており、2週間遅れでやっと小田原の曽我梅林が満開になった。先月の梅祭りイベントに行った時はまだやっと二分咲きで寂しく、観光協会の人も自然相手だからと諦め顔。

日本経済も冬空同様に見通しの暗い状態が続いている。米国のサブプライム問題や投機対象となった原油高騰が主要因で、われわれの自助努力を越えており歯がゆさだけが増していくが、こちらは諦める訳にはいかない。

いいニュースは、相続税の大幅低減など中小企業税制改革法案が出たことである。当会の要望を大幅に超える内容であり、党利党略の国会論議だけでなく、早くこの法案審議を進めてもらいたいものだ。

今号特集の一つにベトナム視察報告を掲載した。最近、企業のベトナム進出はブームというほど脚光を浴びており、当会も3部会が視察に行った。視察参加者はベトナムの活気溢れる実態に感動を覚えたとのことだが、その感動を誌面ではなかなか伝えられないのは残念である。ぜひ皆様も機会を作り、現地で体感を。(橋本)

- 第38回通常総会のご案内 -

日 時 2008年 5月23日(金) 15時30分～

場 所 ホテルパシフィック東京 「萬葉」

港区高輪 3 - 13 - 3

TEL 03 - 3445 - 6711

議案他 2007年(第38期)事業報告に関する件

2007年(第38期)決算案の承認に関する件

2008年(第39期)事業計画案の承認に関する件

2008年(第39期)収支予算案に承認に関する件

2008年・2009年度役員選任の承認に関する件

その他

懇親会 17時～18時30分(予定)

ホテルパシフィック東京 「萬葉」

■表紙写真について

「20 kℓ 積石油タンクローリ」

極東開発工業(株)製

G V W25tのタンクローリ専用エアサスシャシにタンクとフレームを一体にし、強度を確保しつつ軽量化を実現したモノコック構造のタンクフレームを採用。

液体を排出する配管に傾斜をつけることで排出性能を向上させるとともに、残液を極限まで減少させるV字配管と、液漏れの無いアルミ製四方コックによって安全性と作業効率を向上させた石油燃料の効率輸送車です。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回おおよそ1,500部を送付させていただいております。

送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会および自動車関係団体となっております。

広告ご掲載会社

住友スリーエム株式会社表2

セントラル自動車株式会社 39

株式会社コオヨー 40

交通エコロジー・モビリティ財団 41

株式会社損保ジャパン表3

社団法人日本ロジスティクスシステム協会表4

車体NEWS 春号 2008

2008年3月20日発行

発行所 社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL 03-3578-1681

FAX 03-3578-1684

発行人 橋本 茂

制 作 NICS

もの造り
ひと創り
地域社会に貢献

世界のトヨタの一翼をにない、
愛される車づくりをめざして

セントラル自動車株式会社

<http://www.central-motor.co.jp/>



カラーラアクシオは
当社で生産しています

生産車種 |
カラーラアクシオ | ラウム |
ヤリス (輸出車両) |

COROLLA
AXIO



セントラル自動車株式会社
<http://www.central-motor.co.jp/>

■本社	〒229-1182 神奈川県相模原市大山町4番12号	TEL. 042 (774) 1111 FAX. 042 (772) 4674
■宮下工場	〒229-1112 神奈川県相模原市宮下2丁目18番1号	TEL. 042 (774) 0448 FAX. 042 (774) 4120
■宮城工場	〒989-5508 宮城県栗原市若柳武鑑字生江沢50	TEL. 0228 (35) 1115 FAX. 0228 (32) 6661

株式会社コオヨー
KOYO

省エネストーブ型焼却炉 **〈ゴミゼ炉くん〉**

改正廃棄物処理法適合 (平成14年12月施行)

特許申請中

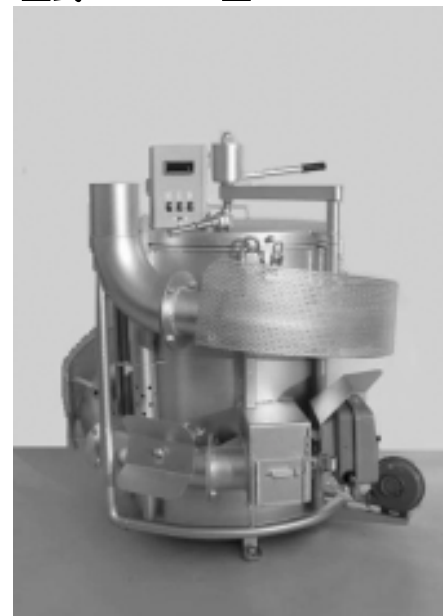
あなたの会社の産廃処理費用はいくらですか？

型式 CM-20 SOB型



届出必要 (政令指定都市によって必要な自治体もございます)

型式 CM-20 型



届出不要

焼却対象物: プラスチック、ビニール、PP製品、油ウエス、オイルエレメント、梱包材、紙類、建築廃材…等
業 種: 工場、建築業、寺院、車両修理業、運送業、塗装業…等

株式会社コオヨー

代表取締役 **溝手 宗勝**

札幌本社 北海道札幌市東区本町1条9丁目1番36
TEL (011) 787-5588 / FAX (011) 787-6611
北見支店 北海道北見市豊地26-19 (工業団地)
TEL (0157) 36-3213 / FAX (0157) 36-3247

HPアドレス <http://www.koyo-web.net/>

● ゴミ問題に一役!

- ・ ゴミを分別せずに焼却処分できます!
- ・ 産業廃棄物処理料のコスト軽減!
- ・ 冬季間の暖房費を節約!

● 費用対効果でご検討ください!

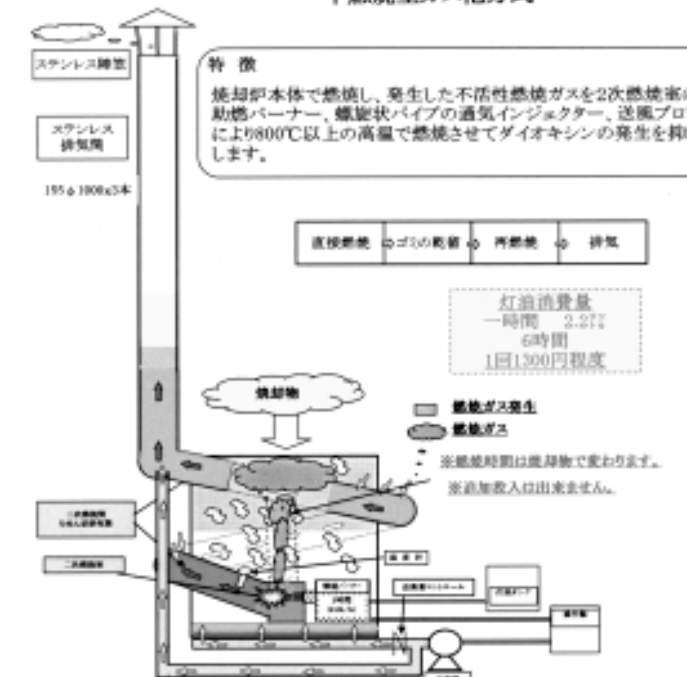
- ・ 月額4万以上であれば導入のメリットがございます!

特 徴

- シンプルな構造で価格を抑え、『ダイオキシン類対策特別処置法』に定められた、排ガスや焼却灰中の有害排出物排出基準をクリアする小型焼却炉です。

- 1次燃焼室において発生した乾留ガスは2次燃焼室+ (らせん状排気筒) においてバーナーで燃焼され送風機からの空気により800度以上で燃焼し暖房等に利用できます。

半燃焼型ガス化方式



大切にしたいモノがあります。

運輸部門のグリーン経営認証

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、
内航海運、旅客船の各事業毎に認証



「環境にやさしい取組みをしている
運輸事業者」を認証する制度が
グリーン経営認証。

すでに4000を超える事業所が認証を取得し、今後も拡大が期待
されています。
国土交通省及び各業界団体の協力を得てエコモ財団が推進し
ています。
グリーン経営は、環境保全の実効性が期待でき、中小規模の事
業者も容易に推進できるものです。
改正省エネ法では荷主の取るべき判断基準として推奨されてい
ます。

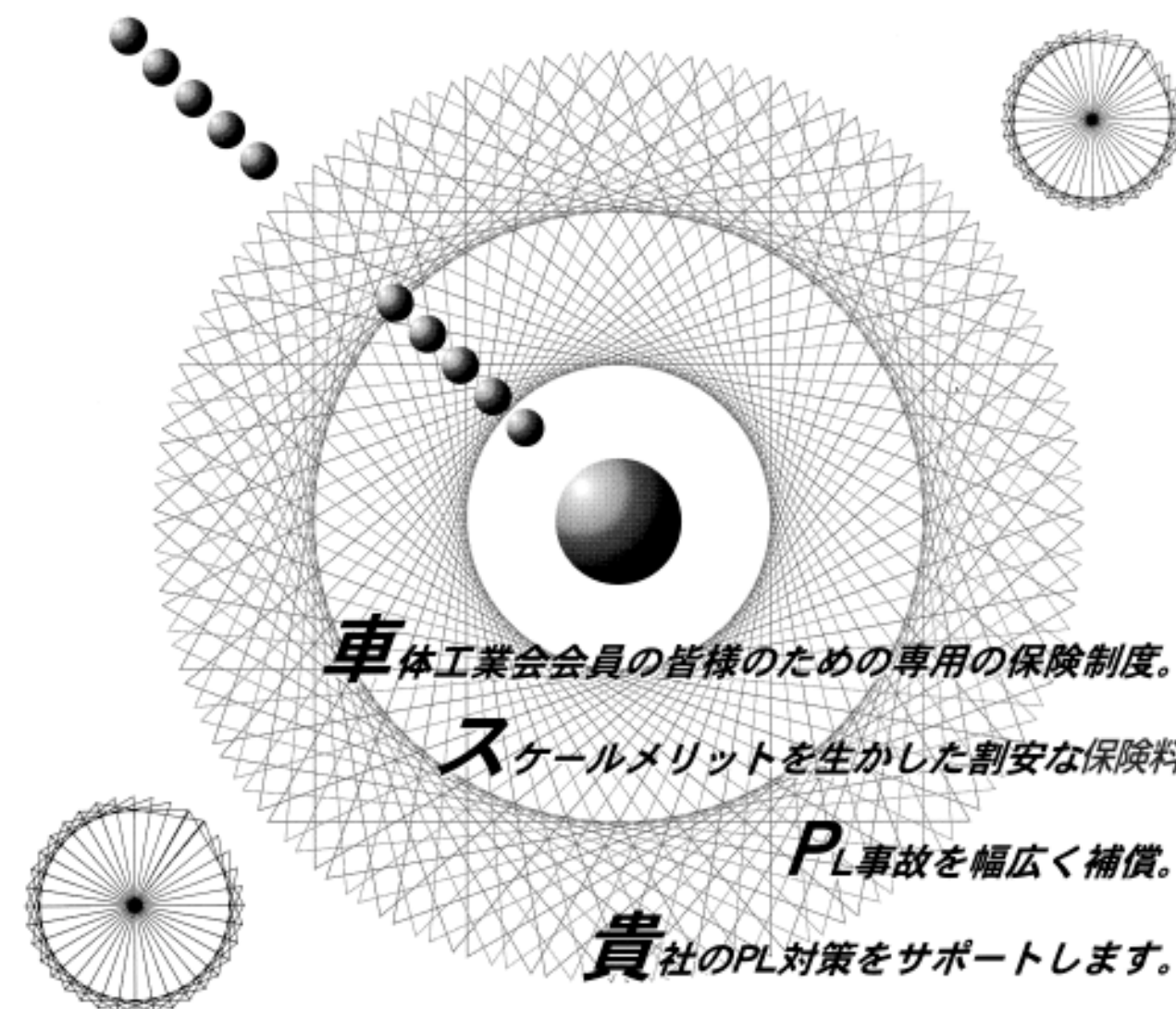
交通エコロジー・モビリティ財団

〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地五番町KUビル3階
TEL03-3221-7636 <http://www.ecomo.or.jp>

生産物賠償責任保険

日本自動車車体工業会 団体P L 保険制度

自動車メーカーだけではなく、
車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。



制度の主旨

- (社) 日本自動車車体工業会の会員の皆様のためのP L 保険制度です。
- P L 事故及び架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
車体工業会のスケールメリットを生かした制度で多くの会員の皆様にご利用
いただいております。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または
損保ジャパン営業店にお問い合わせ下さい。



損保ジャパン
SJ05-09713(2006.1.23)

お問い合わせ先：〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 株式会社損害保険ジャパン営業開発第1部第1課 TEL 03-3349-3216 FAX 03-3348-6939
取 扱 代 理 店：〒231-0041 神奈川県横浜市中区吉田町72番地 サリユートビル5階 株式会社ワイズマン TEL 045-243-5400 FAX 045-243-5333

国際物流総合展2008 集中展示コーナー

安全・安心を運ぶ 出展募集中!! 環境にやさしいトラック輸送

トラック輸送における輸送品質向上と
環境負荷低減にフォーカスした集中展示コーナーを開催!

会期 2008年9月9日(火)～12日(金) 10:00～17:00

会場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)東2・3・4・5・6ホール

CONCEPT
コンセプト

～Next “Stage” 荷主と物流事業者のパートナーシップ～

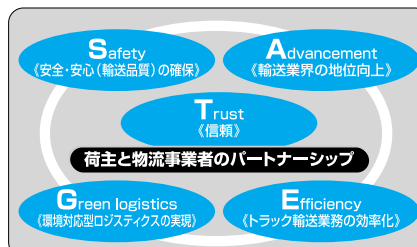
荷主と物流事業者のパートナーシップに基づく、トラック輸送に関する次世代の
“Stage”＝「あるべき姿」を産業界に提案します。

展示内容

トラック輸送のあるべき姿
(Next “Stage”)に基づき、
荷主と物流事業者のパート
ナーシップの観点から、トラック
輸送を支えるソリューションを
紹介します。

Stage

- ▶ Safety……………安全・安心
- ▶ Trust……………信頼
- ▶ Advancement……………地位向上
- ▶ Green logistics……………環境対応
- ▶ Efficiency……………効率化



▶ 出展対象 ◀

【トラック・特装車両・コンテナ】

- 低燃費車両(燃料電池、ハイブリッド、CNG)
- 大型トレーラー、コンテナ
- 低温輸送対応ボデー
- テールゲートリフター など

【輸配送ソリューション】

- サードパーティロジスティクス
- 輸配送サービス など

【輸送関連機器・サービス】

- NOx、PM低減装置(フィルター・触媒等)
- 低燃費タイヤ・ホイール
- チェーン
- 過積載防止装置
- 荷崩れ防止装置
- アルコール検知器
- バイオ燃料
- エコドライブ
- トラックターミナル など

【輸送支援システム】

- テレマティクスサービス
- 運行管理システム
- 求車求貨システム
- 配車計画システム
- デジタルタコグラフ
- ドライブレコーダー
- アイドリングストップシステム
- 自動認識技術
- 後方確認システム
- 運転日報作成支援システム など



▶ 来場対象 ◀

本集中展示コーナー

- 物流事業者の経営者・役員層などの経営トップ
- 物流事業者の運行管理者・CSR部門・購買部門・営業部門など
- 荷主企業の物流・ロジスティクス担当者

国際物流総合展2008全体

- 全産業の経営トップ、物流・ロジスティクス担当者
- 全産業の生産・技術・開発・設計、マーケティング、情報システム、営業・企画、購買・仕入責任者
- 行政機関・団体・学校などの関係者

開催概要

- 主催 社団法人日本産業機械工業会
社団法人日本産業車両協会
社団法人日本パレット協会
日本運搬車両機器協会
社団法人日本ロジスティクスシステム協会
社団法人日本能率協会

展示予定規模 400社／1,800小間(前回334社／1,667小間)

来場予定者数 125,000人(前回124,772人)

出 展 料	小間単価	消費税(5%)	合 計
会 員	¥ 300,000	¥ 15,000	¥ 315,000
会員外	¥ 340,000	¥ 17,000	¥ 357,000

小間サイズ：開口2.97m×奥行き2.97m

※上記会員は主催6団体の正会員および賛助会員とします。

申込締切日 2008年4月25日(金)

出展をご検討の際には、下記事務局までご連絡ください。

お問い合わせ 国際物流総合展事務局

社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 普及開発部
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2丁目ビル
TEL. 03-5484-4021 FAX. 03-5484-4031
E-mail:logis-tech@logistics.or.jp

国際物流総合展

詳細情報はこちらから!

検 索

社団法人 日本能率協会 産業振興本部
〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22
TEL.03-3434-1391 FAX.03-3434-8076
E-mail:logis-tech@convention.jma.or.jp